祝詞宇比麻那毘

阪正臣著

下

特35
786

東京圖書館

和書門	類	函	架	號	冊

祝詞式比麻那毘下卷目次

○地鎮祭
○假殿遷坐祭
○宮門祭
○井神祭
○出船祭 附歸船難船報賽船玉祭
○霹靂祭
○魚獵祭 附獸獵祭
○祈旅程祭 附歸著報賽
○文神祭
○新殿祭 附宅神祭
○本殿遷坐祭
○竈神祭
○山神祭
○祈雨祭 附祈晴及報賽
○地震祭
○祈癒病祭 附疫神祭及醫神祭
○武神祭 附武運長久願禱
○祖靈祭

○附錄鎭魂祭作例

目次畢

祝詞うひまなび

○地鎭祭

これ神社の正殿を始め拜殿または門の類及び人の家屋倉庫などを新築とき其の地を守宰たまふ神を祭祀る行事なり

○生井乃神榮井乃神○綱長井乃神○阿須波乃神○波比岐乃神○

此の五神は座厚の神と申して天皇の御宮地を護り給ふ神なり生も榮も綱長も共に祝して稱へる詞なり阿須波は足場なり波比岐は逗入君なり普通の神社及び人家をつくるにも此の神等を祭るは朝廷の御作法に擬ひ奉る者也○阿須波波比岐兩神は共に大年神の御子にて須佐之男神の御孫なり

○皇神等館敷坐須此乃地乎

神樣がたの御領し遊ばさるゝ此の御所を

某乃神乃宮地登齋定牟登爲氏

此の場所を今から某神の鎭坐あらせらるべき社地と取極めやうと致して

○此

乃小高有留市乃司

○此の小高き場所は高き、地也

○高城たかだんを云ふ

○此乃浅小竹原乎

短き小笹の生たる原なり

○古草爾新艸交留阿

恰支野邊乎

枯殘たる去年の草や生出でたる年の艸やうち混て面白き野邊

○茅草

苅利草苅利

茅草草あるりかつばなの出る草なり

○棘原苅除氣

茨の類ありとれを苅拂ふを云ふ

○這比於保登禮留葛乎拂比

葛のもやとつるなり

○荒草荒木乎打拂比

生茂りたる草や木を伐り拾ふなり

○八十日日波雖有八十數多きなりかひへ來經日の約り

十日日波雖有八十數多きなりかひへ來經日の約り

ふて月の内より多くの日へあるなれども

○今日乎吉日能良辰乃

其の多き日の中よりも今日こそ殊より吉日よりて時も亦佳しけ

○今日乃生日乃足日

生も足も祝して云ふ詞なり

○撰定れば

よき日をえり拔て取極むるなり

○齋鋤齋鍬乎取持氏

齋清めたる鋤や鍬を持て

○石切平志

岩角の凹凸よりたるを平坦にするなり

○地曳坦志

土の高低あるを一樣に均す也

○掃清米塵埃などを取除き清淨にするなり

○石根木根乎穿平志

鋤鍬を以て岩を木の根を堀り均す

○於土乎婆下爾堀返志

上の土を下へかへし下の土を上へかへすなり

○旭照利暉輝久可美地朝も夕も日のよくあたる結構な所

○此乃新墾宮所

此の新しく造る神殿の御敷地

○齋定牟流家屋乃所

此の人家地鎮祭のときに用う

○倉將建刀志氏

土藏を建る時に用う

○皇神等乃彌益々爾守幸閉給比氏

生井の神以下五柱の神等の尙更厚く御守護下されて

○千代萬代毛平介久安介久

千年万年の後までも平穩無事なるやうと

○大地乃岩崩傷布事无久

地形の礎が崩れたりする事无く破たりすると

○大雨零利水溢留刀毋

強雨が降り洪水が出ることと有り

○敷

平世留地乃平可爾築堅牟留場乃壞禮綴夫事无久
よして破損の愛ひ无く

（地形平坦）

作例

○宮地鎭謝祭

（祭文例）

挂母畏伎。生井神。榮井神。綱長井神。阿須波神。波比岐神乃大前爾恐々毛白久。皇神等乃敷坐。此大宮所乎もー人家よりの時ゝ大宮所の三字を家所の二字ゝ換ふ）今毛往前毛。彌益々爾守幸給氐千代万代毛平久。安久下動美。寄來牟地震乃災无久大雨零利水溢留登毛大地乃岩崩傷布事无久堅石爾常石爾。守給幸給幣登禮代乃幣帛乎捧持氐。恐美恐美白。

○地鎭祭

（神事略）

此地乎宇斯吐坐須。大地主神（または此郷乃宇夫須廼止奉稱留某神とも）御前仁。謹々三毋申佐久此所爾某官位姓名乃家將作爲氐。禮代乃御酒御饌奉置氐乞祈白事波。此蹈平均須土乃平可爾。突堅牟累盤根乃動事無久大神等乃相宇豆那比坐氐。此造留家廼棟門廣久高久令榮炫毘古乃神能荒毘給事无久。守幸給反力。惶々美毛言

○新殿祭附宅神祭

祭典署に云く神の宮おハ大殿祭と云ひ八の家には宅神祭と云て屋船豐宇氣姫神屋船久久能智神を祭る此二柱の事は延喜式の大殿祭の詞に委しく見ゆ又大嘗會の當日は大嘗宮を祭る事あり是等の御式は掘ひて遷宮の當日これを行ふ

○屋船句々能智神　伊邪那岐大神の御子まして○屋船豐木の御靈の神まします

宇氣姫神　和久産靈神の御子伊邪那美神の○奥山乃大御孫ふて稲の御靈の神まします

峽小峽爾立留木乎　山の奥の大なる峽や小なる峽に繁り立たる木をおり○峽とハ山と山との間の所也

○齋斧乎以氏伐採利氏　忌清めたる斧を以てきりとりて○本末乎波山乃神爾祭利氏　木の根の方と梢の細き方とを斷ち此を山の神へ手向け置て○中乃間乎持出來氏　木の直中の所ばかりを山から持出して参り○齋鋤乎以氏齋柱立氏　清めたる鋤を以て土を堀り穿て○造奉仕禮そこよ清浄なる柱を立るなり

留瑞之御殿　を作り中ーたる清浄なる神殿○新室　新築の家屋なり○稚室　同上○神庫　神物を納るゝ藏也○倉廩　土藏なり○政廳　官衙なり○軍營　陣所の類なり○厩　馬飼う家○厠　雪隱あり○天津奇護言乎以氏言壽鎮白　左久高天原より於きて事始め給へる靈妙なる詞を以て屋船の神等を鎮祭本るなり○此乃敷坐須大宮地　屋船の神等の守り居給ふ神社の境域也○此乃家居　家屋なり○底津磐根乃極美下津綱根波府虫乃禍無久　岩根の在る邊に至るまでの間結ひ固めたる床下の板の間などより見虫の這入て人を整すやうな事无く○高天原波青雲乃霧久極美天乃血垂飛鳥乃災无久　空の方は青ふしと見ゆる限の間すべて竈上の畑出ーふどより諸鳥の毒ある糞また啄み來たる毒物を墜ー人を傷ふ如き○堀堅米多留柱衍梁戸牖乃錯動支鳴留事無久災ふく

しつかりと挾込みたる柱や桁梁や又は戸や屏の木と木と行合ひたる所が緩みて動いたり鳴つたりする事のふき樣

○引結幣流葛目乃緩比取菅計留草乃噪、敍无久

せて結びたる葛繩の結び目が緩だり又は家根を葺きたる茅のばら〳〵と乱れ散りなどせぬやうに

○御床津方乃喧擾無久神殿の御床がひゝ〳〵と鳴りひゞくやうの事无く

○夜目乃伊須々岐伊恙志伎事无久夜眠れる間ふ物に魘はれ吃驚して駈出す樣ふ事有ては誠に恙しく恥かしき物ふれは然ることと无きやうよ

○打堅米多流釘乃緩毘无久打込て確固とさせたる釘が緩び拔ける事无く

○千尋栲繩持氏百結々備八十結々毘下介氏栲の皮を以て索る千尋の繩を幾條も結合せて横を畳り又結下げて縱を畳り神殿を作ると云ふ古文なり

○柱波高久大久板波廣久厚久造りたる神殿の柱は高く且太く用ゐたる板は廣くして且厚き也

○朝乃御薩夕乃御薩朝夕の御住居所と御社万歳の後までも神云ふ意ふ

○萬代爾神佐備往加牟美豆乃御殿

〻しく傳とるべき清淨なる神殿

○百、代爾母不可易奴宮處百代たちても變改るまじき神殿

○春山乃四各比盛衣氏秋山乃色名付思支大宮御社の在る山が春よなれば春の花によほひ秋ふれば秋の紅葉の花がふつかーきあり

○春去禮婆花咲乎呼、里秋付氣婆丹乃穗爾黃葉留此乃山上句の意とおはかた同じ共に共の新殿を造立せーを形容するふ用ゐむ爲に出せり

○齋庭爾立氏留湯津眞椿乃花乃如照輝久御殿御社の庭前に植ゑたる繁つた椿の花のやうに照輝く神殿なり

○これも實際よ

○雉堞整利臺宇玲瓏久大小の階も立派ふ椿無くば不可ふ

備ハり高樓殿舍も照輝く程ふり

○神籬結固米氏神籬は日室木也神を鎮奉る所の圍ひなり

○打都墨繩乃直一道爾一道は一節と云ふ同じ

○築立都流堅乃

柱乎齋柱刀幸閉坐志氏家の堅めに築立たる柱を○心柱ヒーて守幸へたまへ

靜介久住む人の心も靜穩に

○取置氣留椽樑乃齊保利置並べたる欄の齊、頓はれるが如く齊をり

○取置介類蘆葦能平加爾棧の平均かるか如く平かふ

○取茸介流草葉乃富美莖の富足へるが如く富みふ

葛乃堅久繩葛の堅固きが如く堅く

○前津殿戸後津殿戸御殿の前の戸

うしろの戸なり

○奉留物波御戸代乃長田佐奈田乃今外乃初穗乎拔取利氏齋白爾春支齋箕爾簸設介氏神饌より御神田まで作たる室を祝そる安會

○宮毛動々爾神殿も動搖するほど

○旨酒美爾千年保伎保伎々等餘毛須新室祝千年

今年の稻の初穗を清き白酒より搗き清き箕より篩ひ

○御食爾毛炊支御酒爾母釀志御飯も致し御酒も作り

○千年保伎保伎々等餘毛須新室祝千年

飲喫哉うまきれ酒を飲むこと

○手掌毛慘亮爾拍上介手を拍鳴すなり

○新室樂うたげは酒を飲み手を拍ち歡樂を云ふ

作例

○新殿祭

此能所爾神籬立氏。招奉里令坐奉留。挂麻久毛畏伎屋船命能御前爾白久。今奥山能大峽小峽爾立留木乎。齊斧乎以氏伐取。本末乎婆山神爾祭利氏。中間乎持出來氏。齋鉏乎以氏齋柱立氏。某能神能天能御翳日能御翳登造仕奉禮留瑞能御殿乎天津奇護言乎以氏。言壽鎭白久此能敷坐新宮地能

（私祭要集）

底津磐根能極美。下津綱根波府虫能禍无久。高天原波青雲能霊久極美。天能千垂飛鳥能禍无久。堀堅多留柱桁梁戸牖能錯比動鳴事无久。引結倍留綱目能緩比。取菅留草能噪、伎无久、御牀都比能佐夜岐。夜女能伊須々伎伊豆都志伎事无平久安久奉護留神能御名乎白久。屋船久々、遅命。屋船豊宇氣姫命登。御名乎婆奉稱里氐。今如此造仕奉禮留御殿乎。堅磐爾常磐爾。奉護里奉福良須爾依氐。進留幣帛波。由紀能御食。御酒波甕能邊高知。甕能腹満雙氐。山野能物波甘菜幸菜青海原能物波。鰭能廣物鰭能狹物。奥津毛波邊津毛波爾至聊氐爾。雑々物乎。横山能如久置足波志氐。奉留幣帛乎。安帛能足幣帛登。平久所聞食登。十六自物膝折伏。宇事物頸根突拔氐。稱言竟奉久登白。

○宅神祭

（神事畧）

八十個日波在杼毋。今日乃生日廼足日爾。挂巻毋惶伎。屋船久々、乃遅命屋船豊宇氣毘咩命乃大前仁。恐々美毛言佐久此乃舍乎。底都磐根能極美。下都綱根。波布虫廼禍無久。天乃千垂飛鳥乃災无久。掘堅多流柱桁梁戸窓乃錯比。動鳴事無久。引結累葛目乃緩毘。取菅流草乃噪無久。夜目乃伊須々伎伊豆都志伎事无久。伊豆乃眞屋乃。堅磐爾常磐仁守給比幸反給反刀青和布白和幣。海河山野物等。御食御酒措足方之

鹿、士物膝折伏氏。稱言奉竟久刀言。

○假殿遷坐祭　正殿を造り替へ又は葺替ふるに就て假殿に遷し奉るなり

○大神乃御殿　皇神の鎮坐せる正殿を云ふ　○皇神乃志都宮登靜坐牟御殿毛　靜かなる宮をして住み給ふべき御殿も　○天能御蔭日能御蔭登隱理坐須大宮毛　天を掩ひ日光をさへぎる爲の宮殿なる故よりかく云ふ　○璞玉乃年乃經往介婆　璞乃は冠辭なり　○許々良能年月遠經氏　こゝらの年が多く經たるなり　○自然爾朽損波禮奴連婆　自然は何も事故あれども若干なり數年を經ての意　○由々志久荒禮奴禮婆　そろしく荒廢せし故　○御舍乃甍毛落知天雨露神床乎濡志奴禮婆　たる屋根が拔けて雨露が漏り御神坐が濡れる故　○高垣短垣毛朽知　高塀も袖垣も皆朽ちて　○御屋根朽損倍留遠如例葺替倍奉良牟止須　たやねが損じた故常例の如くふきかへ致さむとする　○皇神乃鎮座須大御殿乃露霜爾强久所損奴流乎修造仕奉留乃爲　神の御鎮座在せらるゝ御殿が露霜の爲にひどく破損したる故今般御修覆申し上げ樣と存じて　○常乃大御舍葺替奉仕止志天　常に鎮り給ふ正殿のたふきかへを仕らうとして　○我賀輩歎愁比氏國中能人々爾談良比氏　奉以の神官等自らなげくありさて國中の有志者に相談する也　○村中乃人々乎誘比天　村内の諸人を說き勸て　○今回新志久仕奉留爾依利氏　此度新規ふ御宮造いたすによつて　○今日乃今宵乃吉日乃吉夜爾　今夜の吉日の夜なれば　○假宮爾遷奉良

牟刀須本宮の御修覆の終る迄假に設けた○正殿造整る宮に遷し申し置かむとそるあり

閉奉留迄本宮の落成する迄の間

○此乃假殿爾遷志奉流此所ある假の

御社へ迁○暫時我間ちよつ○大御形代乎行宮爾奉遷座仕る

久乎御神体を假殿○此乃狀乎平介久安介久聞食志氏へ遷し奉るを

此の次第を御聞入れ下されて○神隨遷利幸世止申須神とまちまちすまゝふ御遷坐○假宮乃事殺在留乎咎米給布事无久あれ

假宮の事ゆる万事省略

よ隨ひ甚麁末あれど○黒木用氏造禮留假宮もそれを御咎めあく創り精げざるうぶの材木よて假○十寸板持氏蓋介留板目

そぎ板にて屋根を葺きたる

宮作れる

其の板目の○眞木乃板戸槍板よれる戸也

○大御心毛穩爾且此乃處爾鎮座世神慮も平穩ふ暫時あれこゝふ鎮座

○伊須呂許比不志古理

給布事无久御心の落付き給はをして御立腹あそばす事のあきやうふ

○大宮造功竟奉良牟日麻傳波此乃行宮乎志豆宮止神隨平介久安介久大座坐世止御正殿を造り了るまでは此の假宮を靜ある御殿として神のまゝに平安ふ御鎮座あらせられよ

作例

○假遷宮本殿

これと假宮へ遷ち奉らむとそるよ際ー本殿よて申ーあぐるなり

（祭文例）

挂母畏伎吾大神能大前爾恐美恐美母白久天能御蔭日能御蔭登隱理坐須此大宮能（菅替の時ふは此間に「上菅流許板能」と云ふ五字を加ふべー）

々良能年月袁經氏自然爾朽損（禮奴流袁此度新日（菅替の時よn

新久の二字を（苔替と換べし）仕奉流聊依氏。今日能今夕能吉日能吉夜爾恐美恐美母假宮爾遷奉牟登須。此狀袁。平久安久聞食氏。神隨遷幸勢登禮代能幣帛袁捧持氏。恐美恐美母。稱辭竟奉久登白

（同上）

○同假殿

これは既に假宮へ遷し奉りたる上よりて申上ぐるおり

挂母恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美母白久。大宮造功竟（苔替の時ふれ「大宮苔」終」とまをすべし）奉良牟日麻傳波。此行宮袁志豆宮登。神隨平久安久。大座坐勢登。恐美恐美母白。

○本殿遷坐祭　正殿の造替既に落成しまたは苔替の竣功せしを以て假殿より御復坐あらせらるゝおよび正遷宮とも云ふ

○此能行宮爾座須關久毛畏支皇神曾時の間鎮坐あらせ參らせし假殿の前よりて皇神お白そ也

○鎮坐牟御殿乎朝爾夕爾伊蘇志美造仕奉利氏皇神の鎮坐し給ふべき正殿の造營を取急ぎ朝夕に勉強仕つれり

○瑞能御殿既爾仕奉竟閉奴清淨なる神殿を最早全く造りをはれり

○如斯速介久其乃事竟閉奴類波かやうに早く落成したるは

○某等我夜中曉時乃休息布事無久何の某どもが此の事件を擔當して夜中でも曉方でも働き

○朝夕夜晝乃不云事行比晝夜朝暮の論もなく事務をとり行ひて

○淨明心正直言以氏諸人平誘布聊依利氏志正直正銘ある人物ゆゑ其の潔白あお心底と偽飾らぬ詞とを以て諸人と

説勸めたるふより○志ゝ助辭なり○皇大神乃敷座世留里乃五百里隧留事无久民等來集比大神の御氏子なる數多の村々一村も漏れず人々が手傳ひに出來りて○某等毛肯比木工手於古世氏何の某かども大工を遣はして賛成○可爾加久爾刀念妨久留人无久何の歟の異論を擔出して邪魔をする人も无く○眞木折久檜乃端手載在留船波棹柁不干海川爾滿續船ゝ海川に漕續けて來るを云ふ○石積在留車波長道無間久立續介氏石を載積たる車ゝ長い間の道筋に中絶も無きほど繁く來る○今年乃初春與利季冬爾至留迄爾造利竟閉奴春より冬まで一年間の光陰を費して造宮を竣れるあり神社の大小ゝより十年を經て始めて落成する宮もあり又僅に一旬より足らずして竣工すべき祠宇もあるべきなれば反乃初與利秋乃末爾至利氏とも何となりとも其の實際に就て云ふべし○御正殿諸乃殿所々乃瑞垣麻傳金玉乎磨伎天舊乃如久造奉利御本殿ゝ勿論其の他の諸殿舍また御垣の類までも玉を磨き金を鍍めて從前の光景よりも劣らぬやうに御造り申し須耀久宮夕日奈須光留宮朝日夕日の如くてりかゞやく宮○新宮爾奉遷今般改造の新殿に御遷坐申さ○恐美恐美毋返志奉良牟止須恐れながら本宮へ御還幸申さむとするあり○神隨還里幸行勢止神とまして御還幸あらせられよと申す也○天乃御蔭日乃御蔭覆布物登絹笠刺羽道具なるを以て天の御陰云ゝと云へり絹笠ハ絹よりて共に神幸の時神輕代の上へさしかける傘の如きもの刺羽は國張の柄の長きやうなるもの也○幸行能道乃守止楯矛弓矢御道筋の警護として武器を備へ○烏羽玉乃夜吉止人乃熟寢爲流

亥乃時爾ぬば玉の烏扇と云ふ草の實なり黒き物故夜の冠絆とあれりとぞ人は皆グッスリと寢ざまりたる夜半ふ也

○神主官位姓名皇神乃御尾前爾仕奉利神主某が神幸の御前驅よお仕へ申ま

○人垣立天氏人が多く供奉參らせ取圍みて恰も垣の如くある也

○御船代爾奉坐里御船代ハ御神体を納めまつる器あり

○雜乃御裝束物儲備閉神の御召物や御壁代のなど種々取揃へ調進する也

○神寶波御鏡御劔御弓矢神寶とハ神の料じたまふ御道具なり

○大神乃御殿預何某爾依利天願請奉利氏御璽捧奉利氏恐美恐美母御供仕奉來氏これは遠き所などより御分靈を迎へ參らせたる遷坐祭ふ用う迎へ參らせたる大神の御本宮の預り(即祠官掌宮司の類)何の誰よ依賴て大神に御願ひ申上げてはるゝ〳〵こゝまで供奉ー來れる也

○安宮乃志豆宮乃故乃如安久穩爾鎮坐氏此の新殿を安く靜なる宮とかぼしめ為て以前に替らぬ御鎮坐まゐ

○天天地日月乃共爾彌遠長爾平加爾鎮座世乃天地日月のあらむ限り遠く永く御鎮坐ましませと

○神司巫等眞廣伎御前母狹爾集侍利神官や神子らが廣き御庭前る狹きはど參りあつまりて

○琴彈支笛吹伎歌舞乎以氏樂米仕奉利音樂歌舞を奏して神慮を慰め奉る也

作例

○權殿祝詞

かもどの〻御前よて申を詞あり

（岡屋祝詞集）

掛毛恐伎大神等能御權殿乃御前爾神主姓名鵜自物頸根衝拔恐美恐美毛白此度御殿乎新久作奉天玉乃如久伊都久志久磨調倍天神主等興利下部爾至萬傳身曾岐祓志清

万波利天。今此時乎。生時乃足時登。齋比定天。恐美恐美毛新御舍爾奉遷良牟登爲天大御酒大御食奉天。奉仕狀乎。平久安久聞食天。不計穢不思過有良牟乎毛神直日大直日爾。見直志聞直志坐天。速加爾新御殿爾遷里神幸世止。恐美恐美毛白須。

○還幸祝詞

すでに本殿に着御あり
一後申し上ぐるなり

（神事略）

此所乎宇斯方伎坐。某神乃大前爾。神司諸。鹿自物膝折伏。宇自物頸根突拔。氏。懼々美毋申佐久。大神乃敷坐此乃宮地廼下都磐根爾宮柱太知高天原仁氷椽高知。氏。朝御蔭夕御蔭乃隱坐。氏。萬代爾神佐備往牟。美豆乃御殿奉仕。氏。神籬結堅米。御船代爾奉坐利。雜乃御裝束物儲備。神寶方御鏡。御劔御弓矢。楯。鉾。御琴御馬爾鞍具。氏。立奉利。忌之里伊頭之理。此能新宮爾奉遷。氏。禮代乃幣波。明妙。照妙。和布蠶布御酒波。瓮戸高知。瓮腹充竝反。御饌方汁爾毋穎爾毋山物野物海物澳藻邊藻爾至未傳爾。如横山引居置。氏。奉留充座乎。安幣乃足幣止。豐明爾所聞食。氏。天地日月乃共爾。彌遠長仁。平爾鎭座世乃恐々美毋白賜方久乃申須。

○宮門祭

祭典畧に云く御門または鳥居を新しく作りたる時に云ふ及ばず平常よりも大殿

祭の日より御門鳥居あどの下ふて祭る云云
云れも朝廷の御門より祀り給ふ御式
より倣ひて神の御門及び庶
人の門みても祭るあり

○御門乃皇神譯稱辭竟奉留御門を守護給ふ神樣と
して御神德を稱讃申す

○櫛磐嚴命豐磐嚴命太玉命の御子天之石門別神の御
別名より朝廷の御門を守り給ふ

神あり也は一神にておはしますを門に祭る時○御門乃
は二の御名を左右に分けて二神の如く祭る

左右爾二柱雙毘鎭座須御門の左右の脇ゐ並び○此乃
て鎭座す御両所の神

御門爾湯津嶋村乃如久塞利坐氏御門とハ神門を指そ
も一人家の門戸から

掠比將奪刀爲類奴乎毛令入立受かそひは掠むるに同
じ財寶を盜み奪へむ

ばは此乃門邊と作るべし湯津云々○四方四隅與利疎備荒
む既に上卷（道饗祭の條）ゑ揭げつ

備來牟天能麻我都比四方四隅より惡事をおこ
さむとして入來る禍神○寶乎

とする賊をば決して○門内に入れたまいそ
ぬやう○上與利往加婆上乎護利下與利往加婆下乎護利

○禍鬼乃來立都事无久門邊へ邪鬼の寄來
禍神が上から入り行からうとあたらば上の方を御守り
ふなり下から入り込まうとあたらば下の方で喰留め
て入らしめたまはざるやうに

○待防敢拂却利言排介坐志天禍物が來たら
ば防ぎて追散し下され

語を以ても御說退け下
御門を出入する人々が

○此乃門乎往來出入留人等上ゑ同じ

過有牟手婆神門を出入する人ゑ罪
や穢や咎過のあらば

○見直志聞直志坐氏御宥恕下

○御門波良將乃安多護流於佐閉乃城能如
されて

久御門は恰も良將が敵を防禦
する所の鎭守府の如きもの

○皇神等乃助護爾依里
氏叙防拂布部支神々の守り給ひ助け給ふゑ

非そば邪鬼を退けがたし

○未然之

外爾拂却介給閉へ妖鬼のいまだ入來らざる前より既より拂却け給へ

○金門陰金門へ鎖を打ちたる扉門なり陰へ其のもとを云ふ

○小金戸上より○日乃緯乃大御門南方の御門也

○日乃經乃御門東門なり○背面乃御門北門なり

○此の三句と成務天皇御紀ふ東西爲ニ日縱南北爲ニ日橫山陽曰ニ影面一山陰曰ニ背面一とあるに堅きて詠る万葉の歌詞なり其の所を得きして明りよ用るへ不可なり

○東乃大伎御門東の大○遐支門なり世爾傳へ利行加牟石乃御門永代傳存すべき石の御門○石の御門とは石の烏居の事をかく云へる也

作例

○宮門祭

挂母畏伎櫛磐牖神豐磐牖神乃大前爾。恐美恐美毛白久此

（祭文例）

御門爾（人の家よてい此門爾と申すべし）湯津磐村乃如塞坐氏。四方四角從利。疎備荒備來牟。天能麻我都比登云神乃。言武惡事爾。相麻自許利相口會賜事无久。自上往波上乎護利自下往波下乎護利。待防掃却。言排坐氏。朝爾波御門乎開夕爾波御門乎閉（烏居を祭る時には此二句を去るかり又人の家にては御門乎を門乎と白すべし）參人罷出人名乎問所知志。咎過有牟乎婆。神直日大直日爾見直聞直坐氏平久安久守幸給閉登。禮代乃幣帛乎棒持氏。恐々毛稱辭竟奉久登白。

○門神祭祝詞

櫛磐牖命豐磐牖命乃御前爾。恐美恐美毛白左久。大神乃。夜

（作者不詳）

波夜能明流極美。日波日乃暮留々、迄此禮乃門邊爾湯津磐
群乃如久塞坐志氐。惡事爾相交古利相口會志米牟刀欲流
天之禍都比。又貧財乎加蘇比奪波牟刀欲流。盜賊等我。四方
四角與利疎備荒備來氐。前都戸爾伊行違比。後都戸爾伊行
違比。候波久乎。大神乃。上乎守利下乎守利。待防岐掃却利。言
排氣坐須爾依里天。屋內乃者等安久穩爾在經留事乎。尊美
嬉美。年毎乃今日乎吉日刀撰定氐。御祭仕奉利。稱辭竟奉
良久乎。平介久安介久聞食世刀。恐美恐美毛白須。

○竈神祭 祭典略よ云く神饌を炊く竈を始め人の家よりても同く祭る云ゝ家毎に必ず祭り往前も守り給はむ事を祈るべきあり竈所は字の如くへつひの在る場所にかまの神を此處に御祭り申すなり

○竈所爾齋奉留 竈所は臺所にて竈もこゝゝ○齋あるが故に神を祭るなり

○此乃黑屋爾齋奉留 廚は臺所にて竈もこゝゝ○齋あるが故に神を祭るなり

火產靈神 火の神にて既に鎮火祭の條に出づ齋と云ふ字を添たるハ朝廷の大炊寮より祭り給ふ御名なり

○奧津日子神○奧津比賣神 大年神の御子にて須佐之男神の御孫ふあたる古事記に諸人之持伊都久の二柱神を家毎ゐ齋祀り日神亦庭高津日神とも申せり此ハ上の奧津日子奧津比賣二神を一に併せ奉りて謂す御名なる由古史傳よ見ゆ

○璞乃年始乃朝與理止良奴年終乃夕麻傳 一月一日の朝より十二月卅一日の晩まで一年中と云ふ意

○日爾異爾賜波留天津火乃恩賴乎赤美重志美毎日々々賜とり受て色々の物を煮たり溫めたりする天津火の御恩を有難く存

じて也賜へるとい火神より賜はる○今日毛賜波留天津ふて天津火とい火を崇めたる名也

火乎天之香山乃火登令受氏既よ今日も頂戴する所の火を天上ある香山の極めて清浄なる火とー○一日毛不落吾我大神等乃高伎貴伎て受けーめ給へ

霊乎被流事乎尊美喜美一年中僅一日の間断も無く竈の神の小緑ならぬ御恩徳を蒙る事を歓喜奉りて

○皇神爾捧久留御饌乎始米氏神さまへさーあげる御饌供物論

○蒼生乃朝夕爾焼舉留竈乃火人民があさばんふ焚きあげる竈の火

○飯炊伎瓮作利種々乃烹物焼物爾至留迄御飯をたいたり御菜を料理よ至る迄

○諸乃食物味美久令調賜比何れのたべもの

おいーく出来させて下されよ

○朝食夕食爾幸閉給閉登朝夕の食事よ御守護下されー

○朝毎爾燧禮留火能清良加爾毎朝打出ぞ火を清浄あらしめ

○齋火乎打出志清火を燧出を

○燧臼燧杵往昔火を燧るふ用ゐ道具ふて槍板よ穴を穿ちこれよ適をる太さの木をはめ込み頻りよ碾揉を○高れば其の穴よ黒き粉たまりて遂ふ火が付くふり

天原爾波神産巣日御祖命乃登陀流天之新巣乃凝烟乃八束垂留麻傳焼擧氣竈の火を盛んよ燎て其の烟ハ空高く立上り高天原よある所の神産巣日御祖命の御竈所の烟出ーまでも屆き○地下波底津石根爾焼凝志氐竈の下方は地底の石根のあたり迄土が幾つかみも有るやうふ煤がたまる迄石の如くに凝固まるはどふ火を燎き続くなり○以上両句は櫛八玉神の申し給へる祝言中の記ふて高天原云々も底津石根云々も假に設けて大國主神の新殿の御庖厨にて火を燎く様を形容ーたる名句也

○如此仕奉留爾依利氐今毛今毛家内乃人諸我手乃蹟足乃蹟爾過犯須事乃在良牟乎婆かやうに御祭を仕るよりて目下も向後も家内の者どもが手の蹟相足の蹟相からつひ竈の

神々へ對し失敬なる事を致したならばと云ふ意○○御心此の次に見直し閉直む給へなどの詞を置くべし

一速備賜波受顯火祭の條より見えたる如く火の神と御氣の短き神にまゐませば御腹立よりて荒び給いざ○伊須呂古比阿禮毘坐須事无久いすろる樣よ願ふなり

ひたよ上よ既よ出つ○枉神乃禍事在良世受火災あれびい荒びなと

枉神の枉事

するよりあ起るれば然る事无く○諸乃穢乎清米給比天種々の穢れ恐く火よて清めて給ひ○伊豆乃御靈乎幸閉給閉登伊豆は極めて清淨なるを云ふ其の極めて清淨なる御靈を御惠與あれと也

作例

○拜竈神詞

（毎朝神拜詞記）

竈處爾齋伎奉留火産靈神○奥津比古奥津比賣神乃御前乎

愼美敬比今日毛賜波留天津火袁天之香山乃火登令受氏枉神乃禍事在世受諸能穢乎清米給比氏伊豆能御靈乎幸閉給閉斗畏美畏美毛拜美奉留

○竈神祭

（私祭要集）

八十日日波在杼毛今日能生日能足日爾竈處爾奉齋留齋火武主比命庭火皇神奥津日子神奥津比賣神等能御前爾白久璞能年立歸留朝與里年能終能夕麻氏日爾巽爾賜波留天津火能恩賴乎辱美氏奉留幣帛波由紀能御食御酒波甕邊高知甕腹滿雙氏山野物波甘菜辛菜青海原物波鰭廣物鰭狹物奥津海菜爾至麻氏爾雜々物乎横山能

如久置足波志氐。奉留幣帛乎。安幣帛能足幣帛登。平久所聞食氐。咎過在牟乎婆。見直志聞直志坐氐。御心一速備賜婆受朝食夕食爾。幸閉給閉登十六自物膝折伏。宇事物頸根突拔氐。稱言竟奉久登白。

○井神祭

祭典略ふ云はく神の井八の井ともに彌都波能賣神御井神鳴雷神を祭る云々鳴雷神は朝廷の主水司にて祀り給ふ神なれば井の前にて祭るもし井無くば日々に水を用ふ所よりて祭るべし

○御井乃皇神刀齋奉留御井を守り給ふ皇神○水波能賣神伊邪那美神の御子よりて水を宰り給ふ神ぉ○御井乃皇神刀齋奉留とも申す上の地鎮祭の條下より擧げたる生井神。榮井神。綱長井。神の三柱八寶ふ三座ましまさそよは非ぞして○即此の御井神の御名を如此種々に稱へたる也とぞ

鳴雷神伊邪那岐命夜見國より入りませる折伊邪那美命の御身體に副居たる八色の雷神の中に鳴雷の名見えたり此の神の御社大和國添上郡ふありとぞ主水司より祭られたる縁由は編者いまだ達せぞ大家より就きて質すべし

○朝與利夕爾至留麻傳朝から晩まで○日爾異爾給波留天津水乃恩賴天津水ハ天の水なり太古天孫降臨の時此の國の水鹽氣ありて重く荒かりければ天兒屋根命其の御子忍雲根命をして更ふ天下に登り御祖の命より乞ひ天の忍石井の水を持降らしめて此の國の水に灌和へ給ひしかば今我れ〳〵が日々に頂戴する如き甘き水とはあれるなりとぞ此の故に稱へて天津水と云○今日毛賜波留天津水乎天忍石乃長井能水登今受氐今日も頂戴する所の水を天忍石の長井の水と同樣ある良き水とあらしめ給へ○和伎水乃

甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水乎彌多爾彌廣爾授介給比

和熟甘美清澄寒冷なる水を○高知留耶天乃御蔭天知

ます〳〵澤山に授け給ひ

留耶日乃御蔭乃水天の影日の影の映○聞无久挹美時

る清き水の意あり

自久爾飲牟常住不斷に汲○千代万代毋奴留牟事無久

みて飲む水

爾碁留事无久千万世の後と雖も水のぬるみ濁ること

の无き樣なぬるむは水の惡くあるを

云ふ○澗留々時无久淺須留時无久水の乾き涸れたり底

の淺くあつたりする

時な○此乃御井乎廣久厚久守賜比平人の井あらば御

くも叮嚀懇切なを

の字を省く廣く厚

云ふ意なるべし○諸〳〵乃穢乎祓比給比清米給比種々の汚

穢なき事も水の德より恐〳〵く祓ひ除く

故かく申して井の神を斯り奉るあり

作例

○井神祭

（祭文例）

挂毛畏伎彌都波能賣神○御井神○鳴雷神乃大前爾畏美畏美

毛白久○此御井乎廣久厚久守賜比幸賜比氐千代萬代毛奴

流牟事无久濁留事无久涸留事无久淺留事无久和伎水乃

甘伎水乃清伎水乃佐夜氣伎水乎○彌多爾○彌廣爾○授賜比與

賜比諸〳〵乃穢乎祓給比清給比過犯事乃有牟乎婆見直聞直

坐氐夜守日守爾守幸給閉登禮代乃幣帛乎捧持氐恐々毛

稱辭竟奉久登白

（神事略）

○同

挂卷毛由々敷只御井皇神乃奉齋留水波乃賣神御井神鳴

雷神止。御名乎伐白氏朝興里夕爾至麻傳。日爾異爾給方累天津水乃恩頼袁。忝那三貴乃美。禮代乃奉流。大御酒。大御食海物野物種々乎。平新久安新久所聞食氏。此乃家廼者等。各々毋々命長久。堅磐仁常磐爾。天津水乎令給賜反乃。頸根突拔氏。惶々美毛白。

○山神祭

古史傳に曰く山津見神は山を掌給ふを木は山より生ふる物なるゆゑ山開きふは此の山の神を祭るぞ古道なる云々○上の新殿祭の下より擧たる詞をも見合せて作るべし

○大山祇大神

迦具土神の御體より成りまゐて山を守りたまふ神なり

○大神

乃主領座世留山祇神の宮ぞ

○羽山志藝山

はやまは端山あるやまは繁山の意

○眞木立都荒山

眞木たつは檜の生立にて山とは冠辭荒山は人氣遠き深山なり

○茂左備立在留青山

茂り立ち神さびて凄きやうなる青山

○山佐毘座須

瑞山

みずは稚々しく清らかなる云ふ瑞枝瑞垣瑞の御殿ぶどの如し座そとは山祇のまします山ゆゑに尊崇して云へるなるべし

○宜志奈倍神左毘立在流山

よろしは備はる足る意あるべは並ぶり

○足日木乃山能常陰爾生立氏流木

足日木は山の冠辭あり

とかげはたを陰の約りたをはたわみなり

○此乃片山

片つら山の山也

○遠山近山

乃大峽小峽爾雙立在留大木小木

新殿祭の下より擧けたるふ同じ

○本打切利末打斷知氏大神爾祭利

これも然り只新殿祭の折む山神を客としこゝへ主とするる差

○宮材引伐

御殿を作る用材を引き

○或波賤乃田廬爾作

利。或い農夫の家よるも

○或波炭薪爾取割伎氐燒き薪にも割また炭にも

り

○山人乃取持都斧乃缺留事无久柚が持つ斧の折れたりする欠けたりする

事の无きやうよ

○杣人乃引久也綱手乃絶留事无久柚等が木を曳出すに手のくるひ足のくる

綱の断れちぎれて怪我せざるやうに

○手乃躓比足乃躓不令在

る無きやうふ御守りあれ

作例

○臨伐木謝山神詞

懸麻久毛畏伎。大山祇神乃御前爾。其神社祠官姓名。鵜自物頂根衝拔伎天。恐美々毛申左久。某我仕奉流。某神社乃社務所年月乎經氐朽損禮奴遍婆。今回新多米造留爾就介氐。

（作者不詳）

何禮乃山能木乎加採瓦牟刀。寛難多留折志毛。大神乃領伎座須此乃山能眞木乃大木乃蘊爾。繁左備立氐流乎見得都故乞奉利氐。本打伐利末打斷知。曳出牟刀欲留乎以氐。今日能佳辰爾。大前乎掃清米。荒草乎嚴能筵刀苅敷伎氐。彌取乃凡乎置足波之。海川山野乃種々乃味物乎。禮代乃幣帛斗棒、介奉瓦久乎。平氣久聞食志氐。杣人乃執留也手斧乃過都事无久。引久耶綱手能斷由流事無久。幸久安瓦爾。事成竟倍志兎給閑斗畏美畏美毛申須。

○出船祭　附無異歸着報賽　船玉祭　雖風之際立願有驗報

船よ他に行むとする時其の海上の無異安穩ならむ事を神に御祈り申すあり○航海の事に關へる諸祭こすべて此の條下を參看し探摘て文を成すべし

○此廼地妻掃清米氏招奉利令座奉留遠き境にまーまーす神をかりよ御招き申さむ爲何地よりもあれきれいなる場所を撰び何更そこを掃ひ清て鎮坐させ申すあり

○住江乃三前乃大神

そみのえは攝津國住吉郡住吉あり今はすみよしと云ふこゝよ鎮坐を大神は航海を守り給ふなり

○底土男命○中土男命○表土男命

これ即住江三前の大神なりとも

○伊邪那岐命の御子なるが神功皇后の韓國を征ち給ふ際よゆゝしき御稜威を顯し給ひ又和魂眼に玉身に而守護命○荒魂爲に先鋒に而導に師船との敎誨もあり皇后の凱陣あらせられ一時ふも亦吾和魂宜居大津淳中倉之長峽に便因看往來船とも後も唐土よ使節を遣はされむとして船居を開かるゝ時に必此の神よ奉幣り給ひたることも知らるるにても祝詞式に其の文の載りたるにても知らる

○綿積神これも伊邪那岐命の御子にて住江の神と同じく樹の小戸の阿波岐原ふ身禊ぬ給ふ時に產れ給へり即海を主宰給ふ神ふて底津綿津見神○中津綿津見神○上津綿津見神と三柱まを也

○某官某位某氏某名これは乘船する人名を祝詞の中ふ書入るゝ時の雛形也たとへば特派遣韓全權大使正四位伯爵小西行長などの如し

○天皇乃令罷乃任爾

○朝廷よりの仰付ふよりて

○言喧久加羅乃國

とさへぐと詞の辭へおり加羅の國方とは朝鮮及び支那おゝ也

○諸の聞分ち難き意よてのらの冠方

もろてしへ唐土なり天皇の某を該國ふ遣ーー給ふふ越乃遠伎境爾被遣罷利立都

よを出發す

○海乃外能歐羅巴乃國聞えたる○西乃洋か如し

廼極端爾在登聞久阿米利加乃國米國い最西の國○北乃海都奈瑠札幌爾將到斗爲流乎此の他神戸、新潟、鹿兒島、弘前等よ向て

拔錨をるそべて其の時々の實際を記すべし

○皇神乃大前乎遙爾拜美これは招

奉らせ遥拜する時ふ用ふ

○來牟某日爾船出志氏來むとはいまゞ出船の當日にはあらざる内ふ所聽を致す時の詞ありもし當日あらば今日とそべし

○松影乃清伎濱邊爾舟浮介氏松葉の緑の色が打ち寄する白波に相映じて實にうつくしき濱邊ふ舟を浮めて

○鏡如須澄米留水戸爾船乎於呂居恵鏡のやうふ平かふ澄亘りたる港ふ船を浮て也おろそふ

○湖待都登潮時を待つとて也

○海津路乃和支奈武時乎候比海上に風波の靜まる時を見はからひて

○船子等乎阿騰毋比立氏々水夫らを呼集め引率して

○勇魚取利海路爾出傳いさなとりの海の冠辭鯨漁の意と云ふ其他ふも說あり

○大艦爾眞梶繁貫伎此のかぢは今俗ふ云ふかぢふ非ず艦擢の類なり今所謂かぢは古舵と云ひし物なりと祝詞考ふ見ゆ繁貫ぬ何箇も連掛けた也

○八十梶懸介榜出牟船八十ヘ例の數多き也又耶曾加奴伎ともあり加ぬ加

遲の略

○早榜久船

○旦奈藝爾水手整倍海上の和靜なる朝ふ水夫等を揃はせて

○誘比氏榜行久舟あともひはあつむるの轉語なりとそ

○夕那伎爾機引折利引折りへ楫を使ふ樣を云へ折斷する由ふはあらぬ

○榜伎撓美行久船たみは廻るなり

○朝和爾伊加伎渡利伊は發語音加

伎へ擢にて水を搔くも云ふ

ぬ渡ると云ふが古の正しき格なるを今の人は海ふも踰

そべて山ふも越ゆると云ひ海ふ

ゆと書くこと多し大

なる誤りとぞ

○夕潮乃滿乃登等美仁とべみぬ留りの畧

言ふて潟へと云ふ

同じかるべしと云ふ

○朝和仁舳向氣將榜刀候比氏舳先を目的の方へ向けて出帆しようと朝和になるを待つなと

朝ふ湊を出帆したらば

○庭乎靜美海上ふ波風のたゝぬ

○海原乎八十島加多の島嶼を經過ぎて行く船

○大船乃思恃美天巨舶は容

久利行久船

易は覆沒する忠も无ければ顛も
しきものと思ひて渡海そるあり
○赤能曾明舟 朱にて塗りた
る舟
○艇 小舟よりて一二人乘る程の者を云ふ
○高瀬舟 小艇の底深き者
○艤艫 船の事あり杉及櫟樟此両樹者可三以爲二浮
軍艦なり
○浮寶 寶と須佐之男神の誨ひしこと神代紀に
出づ
○玉纏乃小檝 玉を卷きて飾りたる檝也
○檣 船棹なり
○帆檣 苫
○舟笭 船中の苫床也
○篷庫 船の上よ家の形にあるが故に稱ふ屋形舟。屋根舟おど俗に
云へ
○纜 艫に附けて舟を維ぐ爲の綱
○牽紘 舟を挽く繩
○碇 重石とも書く
○見送 流人波濱毛狹爾伊群集比氐 某の出帆そる
の近來多く錨の字を用ふ
○追風爾眞帆揚介天 順風
間を見立て出る人は廣き密迫も
際无きよりを
程ふおつまりを
に帆を
まいて
○鴨自物浮寢乎爲都々 鴨のやうよ浮きな
から寐つ〳〵して
○秀
起氐留浪乃穂 沖つ波の高くあ
がるさまを云ふ
○波乃間乎伊行伎佐具
久美 波と波とのあひだを船の行く故よ凹凸が有る也
○さぐゝみは岩根木根屐佐久彌のさくみと同じ
○有廻利 あり〳〵てめぐる也
○和多中乎渡留 洋中を通る也
○海界乎過岐天榜行久 近海を過ぎ盡して沙茫たる大洋に出るなり
○八重汐路乎渡良布 幾量よもおる潮節を渡るなり
○由々志久畏伎住吉乃荒人神 實ゝ御靈威のあらかある住吉の御神
○畏在禮杼皇神酉御魂幸反坐志天 おそれ多けれど住吉さまの御守護下されて
○大神等乃和魂荒魂此乃船能舳爾母艫爾毛神留里宇斯波伎坐之氐 大神たちの和
やかなる御靈も荒らかなる御靈も共よ今回出帆する船の前後よ御憑寄遊ばし御管領下されて
○大神多知船舳爾主領坐志船艫仁御立多志坐志天 忌は上句よこと
ら
○海原能遐爾毛奥仁毛神豆麻利領支座須諸〳〵乃大神等

神は何方とてもましまさざる所无ければ海原の潮と雖も邊と雖も悉く領知し給ふ故其の神等に願ふなり

○久堅能天乃御虛從天翔利見渡志給比空中を飛翔し見渡して守り給ひ

○事了利還羅牟日仁波又更爾御手打掛氣氏使命を全くし或へ士農工商各自の私用を濟して。歸る時に○皇神乃高尙又其の船に神の御手を打ち掛け給ひて伎尊伎靈爾依利氏廣大なる神恩を蒙るよ依りて○己我情進爾行久耐波非受畏支命平蒙利氏奈利自分の物好で行くゝへあらぬ恐れ多き朝廷の仰せを蒙○平介久早渡來氏還事奏左牟無事よ疾く歸りて朝廷へ御りたれば返辭を奏さう○將還日歸るでありう時○行久左毋來左毋船乃早介賜比玲賜比天航海の間風浪の災難無く○棹楫誤多受迅航の術を過ちて

難破そる事なく○大魚乃船覆須禍無久鯨鮫などの巨大なる魚が舟を覆沒させぬや○大海原波吹風乃荒流々事无久立浪乃騷久事无久風荒れぬ浪騷○水上波地行久如久海上を行くこと陸路を行くと同樣よがざるやうよ

しつか○船上波床爾座留如船中に居る時は恰も家の牀上に居ると等く穩よて

○指寄良牟磯乃崎々あちこちの磯の先へ船を寄する時も○漕泊牟澳乃島々澳に在る島々へ舟を泊らそる折も○漕泊氏牟泊々爾とまりは船を止む

所は其の泊へ舟の着くことよて○荒支風波爾つるは同じけれど用ひざまは少しく異あり字は

不令逢猛烈ある風波の難よ出逢ふことおく○眞幸久毛早久到利底無事よてはやく○草管見身疾不令有急介久本津國邊爾息災所に到着して

歸志給閉くさづゝみは冠辭なり疾病おくし○障良布て早速に本國へかへりたまへあり

事無久平介久安介久彼乃地爾伊往還良志米給閉故障なく

安全にして彼の國へ○平介久加多良可爾歸志給幣登往返せしめ給る

ふ堅固に歸し○恙牟事无久疾久歸志給閉て下されとて

つゝむは身證よ事ある

也○説文ふ恙は蟲の名あり腹に入りて人の心を食ふ古人草居して此の害を被る故に恙無き乎と相問ふと云へ

濱備爾直泊爾船泊志米給閉

今般出帆する所まで恰も準繩を引

るより出でたり見ゆ○墨繩乎播倍多留如久某乃浦與利某乃

亘した如く一直線○檮申須事乎機乃音能都婆羅々々

に行き着あめ給へ也

々爾所聞食乃

檮が船柢より聞ゆる故に

よてすれる音のつばら〳〵とにかちのおとの委曲と云ひ係け

て冠辞と

つばらは詳と同言よ

て冠辞せりさことと丁寧ある事よ

○驫爾某我某乃國耳船出爲留時

何の某が先般某の國へ向け出帆致す節○以下十一句報告ふ用ゐる詞○日

乃入留國爾所遣日の入る國とは漢土を指して云ひ來れるが今は西洋のことにも云ひつべたてい廣く國の○自船路某乃

ゝ國○國乃波多氏

このはたは極と云ふ意ある べし

國爾將行刀志天

船よて何の地に行かうと思ひて

○大神乃靈爾依利氏

住吉の大神の御蔭よりて

○大海爾浪奈佐伎會刀願比志爾

大洋よ浪

のさわがざるやう○平介久安介久歸志給閉刀祈白志伎

と祈念ある所

無異に歸國せしめ給へと御いのり申したる

○然留乎祈白志々毛灼久志

志

るよお祈り申し上げたる較著くして

○遙氣幾海路乎浪風乃煩比无久

遠き海路を浪風の爲に惱むこと无く

○都々麻波受面變不爲之天家爾還

都々麻波受面變不爲之天家爾還志米給倍留事乎尊美喜美

恙くあく顏色も變へずして歸宅せしめ給へる御神恩を感喜して

○疾久行伎氏疾久歸良志米給倍留事乎歡備

急ふ

彼の地に到着し又速に此の地に歸着せしめ給へる事を有難くたもひて

○某伊先仁某乃海乎渡留時たとへば相撲乃海を渡流時熊野乃海乎渡留時あどの如し

○以下遭難の報案

○平介久船出波志都流乎港を出帆する時は安でありしを

○海中仁暴風爾遇比天灘よりおそろしき大風より出遭ひ

○俄爾颶風吹出傳忽然強風の吹出で

○阿加良之萬風吹伎氐暴風なり

○波瀾乎起氐天荒波の立つ也

○船楫破禮舟子等便乎失比櫓も楫も破碎け船頭等も手のつけやうがなく

○舟人等立噪介杼毛爲術无志水夫等何はど援い方がない

○無

○浪乃上爾奈豆佐比波の上に拘みて船の進退窮りたる也

○天雲乃多度伎毛知羅受雲の浮きて居る如く船も取附く島の無き也

○だきは便よ同じく

○闇乃夜乃行久先知良受闇夜よハ行く方角の分らぬ物あるが其の闇夜と同様で船の行着く先がわからぬ

○二日二夜漂流比行伎努也聞えたる人乃心安伎空が如し

○朝霧乃思惑比氐朝霧の深く立ちて無久船中の者ども孰れも心更ふ落附かぬ

○物を見惑ふ如く心が惑ひて

○白浪乃高伎荒海乎白波の高く立つ荒海也

○海若乃可畏伎道乎海路をあり

○鳥音母聞衣奴海遙の沖ゆく鳥も聞えぬ也

○國土毛見衣邪瑠大洋目のとゞく限り皆波洋也

○惶支渡海可恐き

○荒浪乃立障布澳荒き波の立ちて障ふる沖なり

○浪乃塞奴留海道乎行介婆海上を行けば波の立障ふる

○吹風毋和爾波不吹風も荒く吹き

○立浪毛疎爾波不立浪も繁く立ち

○澳津波高久立知聞えたる如し

○避路无介禮婆何方從加行加牟荒浪にたてどもそれをよけて外の道ハ舟をやることも出來ねばとも當惑したるあり

○澳津潮

佐爲高久立來氏潮さゐは汐さわぎ○棚雪利雪波降利たゐぐも
りは棚引と同言なりと云ふ○左陰利雨副零利左れ發語陰りて
乎甚美綱波斷衣餘り風が烈しさよ○梶柄母撓美折禮雨まで降る也○風
錨綱あぐも切れ
櫓柄もたわみて折れ○船得進万受舟も進み得ぬ○船泊牟磯乃知良
奈久船が何地の磯に着くやら知り難く○嵒我根乃荒伎島根巖石の突兀と
あた○潮氣立都荒磯潮の氣のたつある島○浪之音乃驟久湊
らいそふり
○澳都波來寄須留濵乃巖爾觸禮氏沖の荒波が打寄する濵の巖石に
衝當て○某乃崎奈留岩崩爾障利岩崩へ石の壞れかゝりたる所也○殆危
り
澪標の喧しき港
○沖津洲爾船波停万利沖の洲の上へ乗上げて船の動かぬ
有之時爾そこんでの事ゐ溺死する所を○ほと〳〵と過ぎて其の事ゐ接近したる意也とぞ○

命危加理志加婆一命も助るまじ○救給閉助給閉乃只一命も覺えしかば
管爾救うて下され助けてくだされと一心より○大前乎望拜美祈奉志即仁
雨風休美氏住吉の御社と思ふ方を心當に遥拜して御願ひ申すと直に荒かりし雨風も歇みて
○某乃所爾泊努留某の浦に着いた船○神乃助有利之爾由留
事乃全く神の御助けによる事也とて○大神乃威稜乎遠久令被給閉留
事乎且驚伎且異美奉利乍歡喜美奉流神の御威德が遠く遠ある境ふまで
達して御救助下されたる事を且ハ驚愕致し且ハ不思議に思ひながら誠によろこばしう喜しう存じまする○
高伎廣伎神恩乎奉仰利奉畏利天此の廣大なる御恩を仰き尊み奉りて○
白波乃伊知之路伎靈驗著きと云はむ料に海に緑有る白波の冐頭を置けりいちじる
き靈驗ハ俗よあらたかな御利益と云ふに同じ○報賽乃幣帛御禮參りの○種
御備へ物

々能御饗乎禮士利刀奉流さまゝの御神饌を○禮代御禮として差上る

乃幣乎捧持知氐謝仕奉良久乎御禮のしるしゝふ物を献じて御謝を申し上る也

作例

○出船祭

（私祭要集）

此能所爾神籬立氐。招請奉里令座奉留。底筒男命中筒男命表筒男命能御前爾白久。今月今日乎。生日能足日登齋定氐船出爲牟乎。大神等能和魂荒魂。此船能舳爾毛艫爾毛。神留里宇斯波伎坐氐。棹柁誤多受。大海原波吹風能荒留事无久立浪乃騒事无久。水上波地往我如。船上波床爾居如。指寄牟磯乃崎々。漕果牟泊々爾。障留事无久。平久安久。令有通給閉登禱白事乎。柁音能都婆良良々爾所聞食登。十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氐。稱言竟奉久登白。

○船報賽

（祭文例）

挂毛畏伎。吾大神乃大前爾畏美畏美毛白久。先爾何某我某國某里爾船出爲流時。吾大神乃靈爾依氐。平久安久歸之給閉登祈白伎。然留乎祈白之々毛灼久。海若乃可畏伎道乎。都々麻波受。面變不爲之氐。家爾還著之米給幣流事乎尊美喜美。禮代乃幣乎捧持氐。謝仕奉良久乎。神隨聞食登畏々毛白

○船難賽

（神事略）

挂卷毋畏久。言卷毋貴支。某大神乃御前爾白須。日者某濱由

里解纜之氏。某地爾將至刀世之海中爾。暴風仁遇天。船柁破連。舟子等便乎失比。殆危有之時爾。救給反助給反刀。只管爾大前袁望拜美。祈奉之即爾。雨風休氏。某處爾船泊努留。高支廣支神恩乎。奉仰里奉畏利氏。報賽乃滿坐袁置高成。宇自物頸根突拔氏。畏々美毛申。

○船玉祭

（祭文例）

船玉神登。御名波白氏。稱辭竟奉良久波。神隨毛。吾皇神乃。御靈賜利氏。船上波牀爾居如久水上波。土乎行如久。撫給比惠給比。海積乃。澳爾毛。邊爾毛。可恐伎風波爾逢世給波受。吾大神。守給比幸給閉登。禮代乃幣帛乎捧持氏。恐美恐美毋。稱辭竟奉良久登白。

○祈雨祭　附祈晴祭

祈雨祈晴は旱魃打續きて作物を損ね降雨打續きて田畑を荒す時よ當り其の禍災を祓禁めむ事を雨を掌り給ふ神たち又へ其の里の產土神よ乞願ふ祭なり上の祈年祭の條下と見合せてつくるべし

○此郷能宇夫須那神斗持齋久某乃大神　いづくふもあれ其の所よ鎭座あらせらるゝ產土神の御前よ申すあり

○高竈神閻竈神　おのみとも龍神を云ふ高へ古史傳よ竈神のある中に初に生出まちて其を統領り給ふ故あらむと見え閻は古事記傳ふ谷を稱ふ由見えて二柱ともに迦具土神の斬られ給へるよ由りて成りませと

○天水分神國水分神　伊邪耶岐

命の御子なりとくまりは分配にて雨を程よく配り降らしめ給ふ由の名

○天久比奢母智神國久比奢母智神くひざもちは汲匏持よて水分神と同じく萬よ水を施して功を成さしむる神なり

○天津神千五百萬國津神千五百萬天地間の諸神を併せ括りて申す

○乾坤乃神爾禱留天神地祇に祈る也

○今年何月乃初旬與利雨不降たとへば六月乃初旬興里又は中旬とも下旬とも雨降良受などの如し

○旱魃打續伎氏日照ばかりつゞきて

○六月能地副割介氏照留日地面迄ひゞれの入る程ふ照す六月の日光

○熱伎日影乃日竝倍氏照勢婆田乃水乾禮氏土折在利猛烈なる日光が毎日々々照り附ける故ふ田の水は悉く干涸れて龜の背のやうなさけた

○植之田毛播之畠毛稻を植ゑた田も粟や豆を蒔いた畑も添比天萎美損波延乍枯奈牟登爲留乎日に〳〵作物がいたみつゝ迷ふは悉く枯れてさうだ

○比來涉旬天不雨之天農業失便利近來長く降らず

○萬調麻都流都可佐御貢物ふ奉る萬の物の雨無く農夫が耕作ふ手を着けかねて居る

○中ふも稻は專とする物なれば司といふ云ふ

○作利多留其乃業耕作ーたる其の業

朝毎仁之保美可禮由久朝毎ハ日毎と云ふが如し次第ふ作物の凋萎する也

○日爾添倍天斯乎禮行久爾をるも萎あり

○野澤乃水乾氏苗代爾稻種蒔久便無久久ーく雨ふらねば野澤ふ水盡きて稻種を卸す事が出來ぬ○是れと春ふ雨

○田加倍須業怠利行久事手歎息伎氏農夫が耕作の業の捗取

无き

○朝夕仁見歎美思長息伎天明けても暮れても見てハ悲み思ひて

歎きぬを歎きて

○其乎見禮婆心乎痛美それを見れば心を傷ましむ

○公民等歎は歎き

悲美侍留爾依氏人民勞りて愁傷仕るふ付き

○大神乃護賜比矜賜

波本爾依利氏志此乃災波滅比天天下豐年爾波可有止

神の守り惠み給はゞ斯る災害も息みて世間皆豐年を得るであらうと

○神司等諸伊豆乃齋屋爾忌籠利天大前爾捧奉流幣帛波

神官ら各々潔齋いたゝ御祭を致さ爲

大前へさゝげ物をする

○此乃郡衙爾仕布留司々乃人等郡衙ハ府廳縣廳な

どゝする妨无し斷雨の祭場へ出席せし人ゝなり

○里々乃人民等麻傳各村の人民ま

で

○各々大前爾參集侍氏いづれも皆御社の前へ參候して

○夜波夜乃明留極美日波日乃暮流々迄鶏如須伊這廻利庭雀群統居氏夜は微夜をなゝ畫の如く這廻り雀の樣よ集り居て

○御前ふ鶏

○嬰子乃乳戀布我如久赤子の乳を欲しがる如く

○天津水仰伎天侍都乎天津水ハ冠辭也雨の下る也

○某乃山能多乎理爾見由流白雲波綿積乃澳を仰待つ也

津宮遐爾立波利山より雲を押出し海上遠かに立覆ひて沛然たる雨を來さしめ給へ○たゝ引い山の低く○彼方乃山乃峽此方乃山乃峽與利雲立騰なりたる所也

利氏海神乃奥津宮方爾競比和多理氏あちらこちらの山と山との間から

雲が立騰りて○忽爾天津水乎令降賜比

海上へ雖き渡り雨をお降ら

せ下○時毛換左受甘雨令零賜閉斗御祈中して時間も立たぬ内よよき雨

されを與へて○或波神鳴震動美氏穀等傷布蟲乃類乎毛掃比下され

賜比或は雷樣が鳴りたゝいて穀物を傷め○種々乃

るあゝき蝗虫あどをも御捏ぎ下され

災皆悉爾銷亡志給比色々の禍害は皆悉く消滅せしめ給ひ

○墓立乃雨打零理氏ダ立が○等能曇合比氏雨乎給閉たゝびき合ひて雨降り

して

出でし○田毎乃水口野澤乃澄水多藝知流禮氏田にも澤にも

めし給へ

溢れこぼるゝ程○朝夕畠耘利培比勞支作留陸田物與里
水を滿たせ
朝暮勤勞して耕作致す畑の雜穀より○於垣下所植齒懸乃類爾至留迄
垣根の元ふ植ゑたる生薑の如き瑣細な菜蔬まで○彌榮衣爾榮衣彌繁利爾繁
利氏彌益繁り榮えて○天下饒足志米賜倍止天下豐饒ならしめ給へ○
諸國豐饒爾苅收訖志米賜閉
農稼爾無妨久農事に妨害の出來せず○農夫等我心足比天惠良々
々爾笑比饒布計百姓等の心よも滿足して嬉しさの餘りゑらゑと笑ひ樂む程に○心
足比爾雨令零賜閉充分と思ふ程に雨を御降らせあれ○祈申須情狀乎
愍美給比御願申を有樣をかわいそうさと思召して○近支間爾雨乎令降賜
比天農業乎助賜閉程无く雨を御降らせありて農夫の業を御助け下されたり○取
作留雜乃穀物等波年毎爾傷布事无久伊加志瑞穗爾榮延
實利氏有來志乎是れまで百姓等の耕作する穀類の年々出來が能く盛んなる有樣ふ實を結
んだの○以下祈晴の詞に屬す○此乃頃雨雲久久覆比霖雨降利氏此の
程よりして雲が久しく空を覆ひ淫霖更ふ晴れや○近來雨降留事涉旬爾氏日累
降雨致して○方今百姓乃耕種留時奈利目下耕種に肝腎の時なり○而
留爾自去四月霖雨不止天農業流損奴倍之然る所去る四月より雨
降り續きて作物悉く損害を蒙る○雨霧相風左倍吹支天曇ひ風副吹き也○高山
乃末短山乃末與利佐久那太理爾落瀧都川乃瀨溢禮天
山々のから落下りたぎる流るゝ水○人民等憂歎伎氏寐毛
の過量あれば川々も皆溢れて
不安佐麻與比有留乎人民悉く愁ひ惑ひ寐食を安んぜずして居る○大神乃

厚助爾依利天此乃災波止牟倍之止念比氐奈毛神の厚き御保助によりてこそ此の災害も免るゝを得べけれと存じて

○大神等相宇豆那比給比氐神々の此の祈禱を御納受ありて

○雨雲乎科戸乃風乃氣吹掃比氐雨の雲と悉く風の吹掃ひて

○天都日乃伊照徹瓦志天日の快く照徹する樣よ

○降雨忽晴禮天五穀損波雨忽晴れ五穀損害を受けざる樣

○秋稼豐登瓦志女秋の田の實も澤山に得させ給へ

○風旱之災不起暴風旱魃の災害無く

○雨止女賜閉刀禱申須霖雨を御歇め下されよと祈る

作例

○祈雨祭

水分皇神止稱言奉竟掛卷毋畏根天水分神國水分神天久

（神事略）

比奢母智神國久比奢母智神高龗神闇龗神及級津比古神級津比咩神乃大前仁奉流幣方和布荒布山野物方甘菜辛菜青海原物波多乃廣物波多能狹物澳藻菜邊藻菜大御酒大御食百取机爾置足方之神司諸集侍利頸根突拔豆畏々美毛申佐久靈幸布神代乃昔言卷毋文爾恐支天照坐皇大神顯之伎蒼生乃食氐可活物叙乃大詔詔之々奥津御年袁何爲乃可頃日絶而久不雨爾伐天日乃光暉爾不得耐手肱爾水沫畫垂里殖之田毋朝夕爾坂培比蒔之苗毛焦損禮凋枯奈武乃爲袁農民等憂吟比爲便不知爾天津水仰氐侍乎大神等伊相宇豆乃比相多須氣坐今毋今毋雨雲立覆

比。光神鳴波多々伎亙。甘雨降沃、宜。水麻可須流。所々ト乃池堤方。言毛更也。水田毛陸田毋能濡比天。公民等我取作留物袁草乃片葉爾至万傳。不傷成幸給反刀。祈白之乞白須事袁進流御馬乃耳。彌高爾所聞食止。神司諸集侍氐。恐美拜美毋申

○砥鹿神社祈雨祭祝詞　（古學諄辭集）

三枝乃參河國寶飫郡一宮村乃下津岩根爾。宮柱太知立氐鎮座坐須。砥鹿大神止稱辭竟奉留。掛卷毛畏支大那牟智神命乃大御前爾。姓名愼美敬比。畏美畏美毛白須。此乃處爾大坐坐氐。大宮乃甕戸押張氐。見遙加之坐須。四方乃國倍波之毛大神乃高支尊支恩賴爾依氐。安國乃足國止。平祈久安祈久。生出留國益人等毛。安久穩爾。其取作留雜乃穀物等波。年毎爾傷布事无久。伊加志瑞穗爾榮延賈利氐有來之乎。今年天保十、年止云年乃。五月乃月立乃頃與利。雨不降。旱續利有經婆。殖之田毛。日爾添氐萎美損波延都々。枯奈牟止爲留乎。公民等歎支悲美侍留爾依天。此國渥美郡奈流吉田城爾坐氐。此邊所領須。松平源朝臣君乃御言以氐。此大神乃御前乎。常與利異爾齋比奉氐。奇之支異之支恩賴乎。乞祈奉禮止。仰賜比任賜閉利。故是乎以氐臨時乃御祭社奉止之氐。此六月乃十六日自利。日波三日。夜波二夜乎。吉日乃吉夜止撰定米氐。神司等諸伊豆乃忌屋爾忌籠利氐。大前爾

捧奉流幣帛波。宇豆乃御饌宇豆乃御餅爾。御酒波甕上高知甕腹滿竝氐。海物山物野物爾至留迄八取之机爾置足波之氐。神主禰宜乎始氐。吉田乃殿爾仕布留司々乃人等。其殿乃領世留里々乃百姓等迄各大前爾參集侍氐。夜波夜乃明留極美。晝波日乃暮流迄。鶏如須伊這比回利。庭雀群統居氐。奉齋奉流新狀乎。神隨看行坐。奉流多米津物乎。安幣帛乃足幣帛止。平介久安所久聞食受賜比氐。四方八方乃公民乃人等我。歎支慨牟事乃狀乎。米具久悲久思行坐氐。今毛往前毛彌益々爾。嚴乃御靈乎幸閉坐氐。彼方乃山乃峽此方乃山乃峽與利。雲立騰氐。海神乃奥津宮方爾。競比和多利氐。忽爾天津水乎令降賜比或波神鳴利震動氐。穀等傷布蟲乃類乎毛掃比賜。毎田乃水口。野澤乃澄水多藝知流氐手肱爾水沫掻垂。向股爾泥掻寄氐取作留奥津御年乎始氐。朝夕爾耘利培比。勞支作留陸田物等與利山縣爾蒔流青菘之類爾至迄毛成傷波受。彌榮爾榮。彌繁爾繁氐。八束穗乃茂穗爾成幸閉賜比百姓等我心足比氐。惠々良々爾笑比饒布計里。奇之支御靈乎幸閉賜比。其家内毛安久平加爾。夜守日守爾守賜比矜賜閉止。鹿自物膝折伏世。鶏自物頸根突拔氐。恐美恐美毋白須。

辭別氐白久。今殊爾招奉流。豐宇氣毘賣神。大年神。御年神。若

年神。天水分神。國水分神。天久比奢母智神。國久比奢母智神乃大御前爾白須。大神等暫此乃處爾。天翔利來坐氐。此獻流物等乎平邪久安祈久相嘗爾聞食氐。奉齋奉祈事乃狀乎。相宇豆那比坐氐。高支貴支恩賴乎幸閉坐氐。速邪久天津水乎分利施之賜比四方國乃民草等我。農業乃行乎助給比惠賜比。作止作留年穀等乎。豐加爾令稔賜閉止。恐美恐美毛白須。又白久。如此奉仕中爾不慮毛過犯須事乃有乎婆。見直之聞直之坐氐。大神等乃御心毛和親爾祈白須事乃由乎。馳出留駒乃耳彌高爾聞食受賜閉止姓名恐美恐美毛白賜波久止白須。

○祈晴祭

（私祭要集）

此里乃宇夫須那神止持崇久。挂万久毛畏支皇神乎始奉里高龍神闇龍神。天水分神國水分神。天久比奢母智神。天津神千五百萬。國津神千五百萬乃。皇神等乃御前爾白久。此頃雨雲久久覆比霖雨降氐。高山乃末短山乃末與里。佐久那太理爾落瀧都。川乃瀨溢氐。百姓乃作止作物波五穀乎始氐。草乃片葉爾至万氐。不生傷閉留賀故爾。百姓等憂歎伎氐。寐毛不安佐麻與比有乎。大神等相宇豆那比給氐雨雲乎科戸乃風乃氣吹掃氐。天津日乃伊照徹良志。百姓乃作止作物波。五穀乎始氐。草乃片葉爾至万氐。成幸閉給閉止

禱白須事乎。進留白馬乃耳、彌高爾所聞食止。恐美恐美毛白須。

（祭文例）

○祈晴

挂母恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美母白久。頃日霖雨難晴氐。百姓能農業流損奴。吾大神能厚助爾依氐斯。此災波可止登、恐自物思議氐。今日能生日能足日爾。禮代能幣帛袁捧持氐恐美恐美母稱辭竟奉流狀乎。平久安久聞食登白。如此仕奉爾依氐。此霖雨忽晴氐。百姓等賀。手肱爾水沫掻垂向肱、爾泥掻寄氐。取作流。奥津御年袁始氐。作々物等袁。成傷波受豊爾牟久佐加爾。令得給閉登。恐美恐美母白

○祈雨及祈晴有驗報賽（同上）

雨を祈り晴をいのりて靈驗ありし時其の御禮の祭りよ申す祝詞なり

挂母恐伎。吾大神能大前爾。恐美恐美母白久。先爾甚斯伎旱有氐（祈晴の報賽にハ霖雨不止斯氐と白そべし）公民能農稼枯牟登爲斯時吾大神能大前爾。雨令零（祈晴の報賽よハ雨令止と白すべし）給閉登。祈白斯伎。然流袁祈白斯々母驗久。甘雨令零（或ハ雨令止）給幣流事袁貴備喜斯備。謝能幣帛袁捧持氐。恐美恐美母稱辭竟奉良久袁。平久安久聞食登白。

○霹靂祭

雷の墮落ざるやうに雷神または其の所を守り給へる產土神に祈請奉るあり

○伊豆能磐境　伊豆は清浮なること磐境へ神座の堅固なるを稱へて申す也　○雷神いかづちは怒之勇ふて總て狀の物を云ふおそろしき　○雨雲乎保呂爾踏阿多志空の雲をとろ〳〵と蹈み散らして　○神登計爲給波牟神登計ハ落雷あり　○畏惶棲遑居留おそれて一縮にあり居る也　○恐畏留々事限量无志恐懼そること際限無きなり　○御稜威乎奮比給布事屢爾氏雷神の靈動する事を御稜威を奮ふとは云へるあり屢〳〵毎々あり　○登抒呂登抒呂羅くさまあり　○大樹乎蹴裂伎大なる樹木をも雷の蹴裂く也　○威伎神乃護助介給波受婆も　○產土の神のかしこき御保護が無かつたならば　○光神鳴波多々伎雷の鳴とためくあり

作例

○雷神祭

（私祭要集）

此能所乎伊豆能磐境登掃清氏。神饌立氏。招請奉里令坐奉留。雷神乃御前爾白久。大神能御心一速備給登爲氏波。雨雲乎保漏爾蹈阿多志。神登計有志給波牟事乎何某等畏惶美棲遑居乎。憐美給比氏。此能處爾。神登計有世受御心毛安穩爾夜能守日能守爾。護惠幸閉給閉登。家內受男女諸十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏。稱言竟奉久登白

○避雷祭

（作者不詳）

此乃里乃產土神止坐須。關万久母恐伎某大神乃大前爾。詞官姓名鹿自物膝折伏世。鵜自物項根衝拔伎氏。恐美恐美毛申左久。此乃項一逸支雷神乃。御稜威乎奮比給布事屢爾天

或時波迅風爾御利。或時波霈雨耳副比稻妻能畏伎光乎放知天雲乎轟々耳蹈迹驚加之。神解志給比天波。岡備乃巖根乎打碎支。野路能大樹乎蹴裂伎給布乎以氐此乃邊乃里々家々乃人皆安伎心毛無久。麻乃帳乎垂禮。香乎焚伎又近伎頃作利創米志避雷留器械乎屋上耳設置乎。畏美壁比居流物加良。鳴神乃御稜威波斯留物以氐障倍奉留可久毛有良受。尚吾大神乃。廣伎厚伎御保護耳依天古曾。此乃災波追留可禮止。今日波毛。殊爾大前乎齋比奉利天。海川山野乃種々乃味物袁棒奉利。里人等諸止共爾。其氐御保護乎乞奉利。祈奉留狀乎。勞志美悲美給比。此乃後此乃邊耳。神解乃災不令有。安久穩耳。家乃業乎。令勤給閉刀。畏美畏美毛申須。

○祭大雷大神祝詞

（古學諄辭集）

此乃神床爾神籬立氐。鎮奉里稱辭竟奉留。掛卷毛畏支大雷大神乃大御前爾。愼美敬比拜美奉里氐。畏美畏美毛白須。高天原爾神留坐須。神魯岐神魯美乃命以氐。神伊邪那岐伊邪那美命。大八島乃國々島々乎生給比。世廼人草乎惠給布登諸乃神達袁生給比。麻奈乙子爾火産靈神乎生給比。伊邪那岐神火結神乃御靈爾因氐。大神乃生坐氐。世爾有留枉事禍物乎。拂給布本能由乃麻々遍々。高天原爾始給比之事遠。神隨毛知看志氐。荒備健比崇里給布事無久。四方四隅與利荒

疏備來牟。萬乃枉物禍事乎。攘給比追退給比。此乃殿爾神降世之米給布事無久。稜威乃御靈乎。幸閉給幣。惠給閉宇豆那比給閉止。祈祝伎乞願奉里氏。月毎乃朔日乃日止。十五日廼日乃定禮留祭波更奈利。御稜威乎振比給波牟臨時爾母。其禮代登立奉留物等乃。洩落牟事乎婆。見直之聞直志給比罪犯有哀波。宥給比恕志給比氐。夜乃守日乃守爾守幸閉給閉登。鹿自物膝折伏世。鵜自物頂根突拔氐。開手打上計。畏美畏美母祈祝伎奉留事乃由乎。相殿爾齋比奉留。風神火神金神水神土神諸共爾。平氣久安氣久聞看氐。守里幸閉給幣止白須

○地震祭　地震の災有るとき其を免れむ爲神を祭り御冥助を乞ひ申すなり

○此乃項誰禮乃神能御心爾加近來如何なる神の御怒よりてやら○是れは地震を以て神の御所爲と想像あたるあり

○奈韋震轟伎ゆりとゝろきゆるは地震の事あり

響くなり

○時乃無久地震布里時も定まらず地震するなり布里へゆりお同じ

○冥渤鼓盪山岳鳴响山河草木悉く震動するなり

○天乎扇母志地乎扇母志天地を動搖せむるなり

○家居傾伎家屋も傾き

○床都備噪伎氏床がたゝと鳴りひしめき

○大殿乃彼都鰭手隅傾伎御殿の彼方の隅が引傾ぎ

○下動美那爲我與利來氏既に地鎮祭の條に云さり

○地震乃後爾小震留事不止地震あり（て其の後も少づゝ時々動搖して止まざるあり

○

地震乃災有利氏舍宅悉仆顚利人民多爾流亡多利地震の爲に家屋殘らず頽壞して人民も數多ふくなりたり

○嶺谷崩潰禮氏京中水溢禮多利溪と峰とがくつれて京中へ水が溢れ出たも及ばぬ程の地震がした

○異常奈留地震乃災有利聞き昔から聞きたる事も無いと老人らも云ふ

○如此之災古來未聞止故老毛申加様なる禍災が打續き今月に至りてもまだ止まぬ

○天變地異今月万氏爾不止天災地妖

○人々危美歎比誰もくん皆けんがりてあげき居る

○皇神乃宇斯波伎坐須郷乃限波大神の御氏子である村々はことごとく

○奈爲能伊須々伎伊豆都志伎事无久伊須々伎の事も上の大殿祭の下ふ既ふ出

作例

○地震祭

（私祭要集）

此郷乎宇斯波伎坐須。皇神乎始米。天津神千五百万。國津神千五百万能皇神等能。御前爾白久。此頃誰神能御心爾加。奈韋震登杼呂幾家居加多夫伎床都備嘆氏。人々心毛不安。危美歎加比。志自末比居乎。憐美給比氏。皇神能宇斯波伎坐須郷能限波。奈韋能伊須々伎伊豆都志伎事无久。令在給閉登十六自物膝折伏宇事物頸根突拔氏。恐美恐美毛白

○地震

（神事略）

此郷乎宇之方伎坐須。大地主神及産土神乃。大前爾申佐久屬時刀無久。奈韋震登杼呂伎家居傾支。床都備嘆氏。諸人心

毋不安危夫未歎可比。棲遑乍居乎。憐給比惠給比氐。皇神等乃。牛掃給布郷之際方。那韋乃伊須々企。伊豆都斯幾事無久令在給反刀。御膳御酒置足方之。頸根突拔氐。畏々美毛告

○魚獵祭

附獸獵祭

漁夫または獵人が其の産業に幸福からむ爲厮禱を乞ひたる時の祭はすべて此の條下を採拾ひて祭を作るべし

○天宇受賣命　此の神も皇に仕へまつらしめ給へる故に漁獵祭よりの魚どもを追集めて天お祭り申すあり

○言代主命　此の神取魚して御大の崎に坐しつるよし見えたれば亦漁獵祭より申して御守護をこふあり

○某郡某村乃海人何某我網子調倍氐引久網耳あまへ男女どもふ漁夫を云ふ何の某が長となりて多くの獵師を引率して引く網よあり○網をかけむとて多くの人を呼集るを網子調ふると云ふ

○何奈留故爾加此浦爾諸乃魚等寄不來どうあたもの か此の浦へ魚が寄集らぬあり

○海人子等海幸得邪禮婆漁夫等が漁ふ出ても何も得ものが無き故

○憂比佐麻與比和備都々有乎獸きまどひて致しかたなく迫り居るを

○皇神等相宇豆那比給氐鰭廣物鰭狹物乎追聚兎氐神さまたちの御承諾下され大小の魚類を追集め網ふかゝるやうよしとて下され

○此乃浦耳取魚爲留海人子等賀こゝで漁夫世をする漁夫等が

○鯢潜介留海人乃兒かづくは海中を泳ぐなり

○海嬬嬬漁夫の娘

○鈴寸釣留海部乃燭あり

○鮪衝鱸を取るとて漁夫が海上よりともす燭火あり

久海人我燭在留漁火

○鮪衝かむ爲ふ船よりて漁夫のともせる火あり

○釣爲留

小舟　釣をなる居る小漁艇也　○釣舟　乃多由多布釣する小舟のゆら〳〵をする也

○堅魚釣　利鯛釣　利矜　利　鰹を釣つたり鯛を釣つたりするにうかれ

流耳都　一魚毛得受　魚を釣つた所が頓と一匹もかゝらぬんだ　○漁夫小艇

波良々耳浮伎　漁舟の散りちりふ浮べる也　○不知魚取海片就伎氐玉

拾布濵邊乎近美　いさあどりハ既ふ出たり海より片よりたる地なれた濵邊へ近き故と云ふ意

也　○大御饌爾仕奉留刀遠近爾伊邪理釣　利　朝廷または神へのみつ

ぎものを爲むとてかなたこなたより魚を取る○いざりは網引くことに云ひつりは給よて釣るなり　○雨零

利風吹久登毛海幸違過都事無久　たとひ雨が降つても風が吹いてもいつも

漁獲のあるやうふ　○置網　乃網目漏左受引網　乃網手緩米受　網の目から魚も脱れず又網の

網もゆるまぬ樣よ　○有乃悉漏留事无久落留事无久取

得之米給比　海中の魚を殘さず漏さを取上げさせて下され　○佐和々〳〵耳令弱

揚給閉　さわ〳〵噪々しくさわぐを云ふ　○拆竹乃登

よ漁夫らの嘩し

遠々登遠々爾眞名咋獻良志米給閉　割きたる竹の資の上ふ數多の魚を積

みて神の御贄に奉らしめ給へ　○葦別小舟障無久　葦間わけ行く小漁舟の物に障へらる

る事无く　○網引乃浮笑乃緒　浮笑また泛子とも書く網のしるしふ附る也　○鯨鯢

○鰐　○鯊魚　○鮫　○王餘魚　又加良衣比とも云ふ　○鰹　○鱣魚　引なぎの事　○艤　俗にをてせと云ふ

○鯵　○鰯　○鯖　○鯛　○漁子　漁夫あり　○漁父　云かくも　○白水郎　書かくも　○潜女　鰒を取る海女あり

○網罟　○繩　○魚梁　魚を取る簀也　○筌　魚を捕る竹筒也　○籤　竹を以て

水中ハ圍ひて其の中よ魚を養ふものあり　○鳥獵　鳥を取るあり　○鳴罠　鳴を取る爲ハ設く

る罠也

○朝狩耳五百都鳥立氏夕獵爾千鳥蹈立氏

の多きを云ふ朝夕は鷹を放ちて鳥をとる也

○阿治群乃騒岐競比氏五百も千も數味鴨の群りて

立騒ぐが如くに

○野毛多爾鳥須多介利すたくゝ集れるも野ゝ澤

さわぎ競ふ也

○矢形尾乃大黒爾白塗能鈴取着氣のおはぐやかたを

山ゝ鳥の集在る也

ろゝ鷹の質なり白塗の鈴ハ銀色したる鈴なり

○鵜川鵜を使ひて魚を取るを鵜川と云ふ

○鵜乎八潜氣鵜を八箇水中ふ潜か

しめて魚を取る也

○山能幸男山より入りて獵をする人をか

く云ふ也

○手束弓手爾執持知天朝猟爾立都手束ハ手握る故

の名あり弓を手ふとり持ちて朝より狩に立出る

○野上爾波跡見居置伎眞山爾波射目立渡志朝獵爾十六履起志夕狩爾十里蹋立氏野ゝは跡見と射部と弓射る人を多く立列ねて朝の獵より猪鹿を追

出しタの狩には鳥を追立つると云ふ意

おり十六も十里も遠れよ假りて書けり

○猪鹿待都猪、狩

行きて猪、の

出るを待つ也

○猪乃宇陀伎

猪の怒り

たる也

○左牡鹿乃朝伏須小野左ハ發語男鹿の朝に臥を小野也

○藥

獵夏狩とて鹿の若角を取る爲の狩也

○山爾入利氏獸、乎寛計抒毛獸、乃

乾迹陀爾見衣受山ふ別け入りて獸をさがせども更に

居らぬのみおらず其の獸の乾きたる

足痕さへも見えぬとなり

○此乃野爾猪鹿多在戴、介多流角波枯樹末

爾類多利聚閉留脚波弱木林乃如志呼吸久氣息波朝霧似

勢理此の野ゝは猪鹿多く住みて其の角は枯木の抄の如く集れる脚は若木の原の如く呼吸する息は朝霧

の如くふ夥、

○皮服著氏角附乍伏在留鹿皮の衣を着て寐

しき事あり

て居る鹿角を戴きて

○これは鹿

を人に規立てたる也

○身一都爾七、重花咲久八、重花咲久

これは萬葉集ふる歌に。云々佐男鹿の來立嘆かく頓よ吾は死ぬべし。大君に吾は仕へむ。吾が角は御笠のはやし（令集と云ふ意にて飾なり）吾が耳は御墨坩。吾が目は眞澄の鏡。吾が爪は御弓の弭。吾が毛は御筆のはやし。吾が皮は御箱の皮よ吾宍は御鮨はやし吾が肝も御鮨はやし吾が醢は御醢のはやし者矣ぬ吾が身一つふ七重花さく八重花さく云々と云ふ意なりと約めても云ふ

○媒鳥○鵠○銃砲火筒の訓いかゞあらむ試に施しつ今の獵

○熊○麋○麁○鼯○猴○狐○狢○狸○兎○鼯鼠毛美とも云ふ俗ふのぶそまと稱ふる由○獵師○列卒狩子なり○山幸毛己我幸々し海幸毛己我幸々し山ふて幸福を得るも海に幸福を得るも皆其の人々に受け備へたる事より移換べからざるふり○これは火遠理命の故事なり

作例

○祈漁獵

（祭文例）

挂毛畏伎。吾大神乃大前爾。恐美恐美毛白久。某國某郡某村乃海人何某我。網子調、氏引網爾。綿積乃鰭乃廣物。鰭乃狹物乃。有乃盡。漏事无久。落事无久。取得之米給比。雨零風吹登母海幸違過都事无久。守給比幸給閉登。禮代乃幣帛乎捧持氏恐々毛稱辭竟奉久登白。

○取魚祭

（私祭要集）

此能所乎伊豆能磐境登掃清氏。神籬立氏招請奉里。令坐奉留。天宇受賣命。言代主命能御前爾白久。頃日何奈留故爾加

此浦爾諸魚等寄不來氐海人子等海幸得邪禮婆憂佐麻與比和備都々有乎皇神等相宇豆那比給鰭能廣物鰭能狹物乎追聚氐此浦爾取魚爲留海人子等賀置網能網目漏左受引網能網手不緩佐和佐和爾令引揚給閉登奉留禮自利能幣帛波由紀能御食御酒波甕能閉高知甕能腹滿雙氐山野物波甘菜辛菜青海原物波鰭能廣物鰭能狹物奥津毛波邊津毛波爾至麻氐爾雜々物乎横山乃如久置足波志氐奉留幣帛乎安幣帛能足幣帛登平久所聞食登十六自物膝折伏字事物頸根突拔氐稱言竟奉久登白

○祈漁（神事略）

言慕母綾爾畏伎吾大神乃御前爾懼々三毋申佐久此鄉能漁夫等間者海幸失比和備都々居乎相恤三相慈給比氐大海乃巨口細鱗等袁追聚米天海人等我網子調反氐引網乃網目不泄引網乃網手不緩佐々和々爾令曳揚給伐荷前方横山乃如久引居置氐奉牟刀禮自利乃御幣棒持氐祈請奉久刀言

○祈獸祝詞（作者不詳）

某乃大神乃御前爾畏美畏美毋啓左久大神乃往昔與理吾我地刀主佩坐須此山爾波鹿甚多久氐戴在角波枯木末如志聚閉留脚波若木原類志噴介留息波朝霧似世利故山麓

耳家居志氐。山幸得多類獵夫等波。奔火乃玉筒負比氐。朝爾異爾伊行伎狩禮抒毋盡流事無久。隨分利潤乎得都留毛。偏耳大神乃。御恩賴耳由留事乃。嬉美謝保比乍在來志乎。近伎頃與理。鹿等何方閉加散禮失世氐。終日覓介杼毋。其乃乾迹陀爾見衣受。然許多有利志物能。頓爾盡伎奴可久波阿羅自若大神乃御心耳。不志已利給布事有利氐。隱志給閉留爾加乃。獵夫等一同畏懼万利。大前耳種々乃御饗乎奉利。祈白須狀乎。憫美給比。惠備給比。過犯志氣牟罪咎波。神直日大直日仁見直志聞直志坐志氐。往日乃如山幸弖波受。鹿多仁寄志賜波婆。志我角波御笠乃林。志我耳波御墾斗目波眞澄鏡爪波御弓乃弭。毛乎御筆爾製利。皮乎御箱仁覆利。宍乃臓乃波御鱠林乃爲氐。饗乃禮代爾奉瓦牟登申須事乎平介久安介久聞食氐。乞乃隨爾幸閉給閉乃。畏美畏美毛啓須。

○祈癒病祭　附竪神祭

何の病ふもあれ人の病煩ひて醫藥に心を盡せども癒えがたき時御救助を乞ひ奉らむ爲せ

産土神またはそれぞれの病を守り給ふ神たちよ祈禱する詞はすべて此の條より就きて索むべし

○此乃郷波志毛吾大神乃鎮坐氐神隨靈幸閉坐須里爾志在禮婆此の村い吾が産土の大神の御鎮坐あらせられて神どまーまそもゝふ御愛護下さる村である

ば○此能村波斯母吾皇神乃敷坐須里刀意は上句にたゝあり○平介久安介久有經留事乎尊備喜備他村ゝは流行病あれども此の村は大神の御守護ふよりて安全ふ日を送りることを感喜する時の詞なり○浦安伎樂伎里刀氏子乃諸人等喪無久事无久有經志乎心安くして樂しき里あり氏子一同無事息災にて暮し來たる所○村内爾病起利氏人多爾失奴村内にも惡病が流行して多くの人が澤山死んだ○此乃頃四方廼里々爾病起利氏人多仁惱美失奴流毛數多有利近來各所に惡病が流行して多くの人が頻ひ又死去する者も澤山ある○某乃國某乃郡某乃里人姓名伊某乃病有利氏月日左廻泥久病臥世利たとへば越乃道尻浦原郡新潟乃里人青木連成伊脈乃病有利氏云々との如し月日さまねくと長の月日を云ふが如し病臥は字の如く病みて臥せる也○宇治方夜伎疫病神

ちはやきい一逸きに同じ又伊受波耶伎とも云ふえやみは役よ立つが如く多くの人が一時ふ頻ふ也○頃日多仁疫病乎起志伊須呂許比阿禮毘坐氏此の程よりして頻に惡疫を起し神の御心も騒立ちて荒給ふ○公民乎遠延臥志給布賀故爾衆人を病臥せしめ給ふ故○將死命甚急耳成利奴殆死期よ迫りたるあり○漸々仁形體久都保利追々しよ容態も損じゆき○年長久くづはりは崩るゝみ同じ病美志渡禮婆長き間病み居る故に○偃爲人臥して居る人あり○言布事毛將止刀須ものも言ひ難ぬる程ふなつた○村肝能心乎痛美奴要子鳥裏歎居留村肝のも奴要子鳥も共ふ冠辞心の裏よ傷み愁ひ居るなり○杖不足八尺乃歎杖たらぬへ冠辞甚しき歎息なり○思結禮歎伎乍心よ結ばれて愁ふる也○晝〻波毛歎加比暮志夜波毛息衝明志晝の間ばは歎きてくらし夜よ

なれば息を衝きて明す○歎も長息にて息衝よ同じ○月愁傷する時はため息を長くつく物故よ如此云ふ也

重爾憂比左迷比月を累ねて長き○八重浪雖久玉藻問愛ひ迷ふあり

能節間毛惜伎命八重浪云々は節と云はむ序あり命の甚惜き由あり○打雖伎床耳臥伏斯打靡へあよ〳〵と蔡上ふ臥す樣を云○伊ふすも同じくねることも

多計久能日爾異爾麻左流病勢が日を追ひて增長するなり○春乃花折利氏挿頭牟手力毛無久花を折りてかざしーあする程の手の力さへもあく弱りたる也

○息左閉耳將絶刀須息もたえさうなり○伊良那氣久其所爾思比氏いくち無く思ひてなり○伊登能伎氏短幾物乎端截留さふ無くすら短い物を又其の端を切り斷つ○貧なる上に病むと云ふ譬あり○伊登乃幾氏痛伎傷爾鹹鹽乎灌久刀云布如久いとゞさへ痛む疵に辛い鹽をそゝぎかけると云ふ加く

○是れも上と同一のたとへなり○益々毛重伎馬荷爾表荷打部刀云布事能如馬の荷の甚重い上へ尙又荷を附副ふるやうなるもので○是れも同じ譬あり○老仁氏在留身乃上爾病乎良加閉氏在禮婆老人である上に病○みてさへ居れば

此乎思布爾吾大神乃氏子等袁守給比幸給布高伎貴伎恩賴乎被利氏志此乃病波可止登恐自物思議利氏つくづく考ふるよ此の病痾は中々人力の及ぶ所にあらぬ全く氏子の者どもを御愛護下さる產土神の高く貴き御恩を仰ぐ非ざれば防ぎ難か○天神仰乞祈美地祇伏氏額拜伎仰ぎらむと思量して天神を祈り伏して地祇を拜し○加々羅受母加々利毛神乃隨意御めぐみに憑る憑らざるもたゞ神の御心まかせ○立阿佐利我賀乞祈立あさりへ心焦れしてたち騷ぐを云ふ○良仁神靈坐婆某我所傷事乎助給閉以此神

靈乃神止坐須事乎知良牟

實に神靈のあらせらるゝ物あれば某がかほどまでに傷悲みて御祈り申すことをあれと御聞受ふなまて御救助下されそれでこそ神靈の神靈たることを知るであらう

○進牟母不知退母不知思歎伎氏哀傷の極まれるなり

○惱牟者乎婆速氣久癒志給比直志給比氏やみ煩へる人をば早速に全快せしめ給ひて

○村乃内爾波諸病不令有此の村内には何病ふ限らぬ起らざるやう

○從今後波村内爾此病保毘許留事无久今日以後ふ御守り下されふ此の惡病

○此等能災波末然爾消滅賜比氏かやうあらる病難とい全だ發起せざる前に神助を以て消滅せしめ給ひ

○心毛安久轉樂久守給幸給閉刀安心してだん〳〵樂しくなるやうふ御守りあれ

○脚氣病かくけあり

○疝せんあり又ふらたみとも云ふ

○痢病りびやうなり

○赤痢

○白痢

○淋病數尿する故の名也り人びやう也

○疫病民皆病也と注せり又ときのけとも云ふ

○癘○癲狂氣狂ひなり

○黃疸わうだんなり

○霍亂くわくらんなり

○瘧病おこりあり

○瘡○皰瘡はうさ也

○遠津神代爾大神能吉備國爾幸行之時蘇民將來及其乃妻子乎救給比助給幣流事乃如久

これハ須佐之男神ふ白す詞あり神代の時彼の神備後國ふて富める人巨且將來と云へるを訪ひ宿を借らむとを給ひしよ貸奉らぬ其の兄蘇民將來い貧けれども宿貸し奉りしかば大神其の志をよろこび給ひ國中疫病ふ罹りし時に蘇民が家のみハ其の災を免れ給へり今も其の如く守り給へと申すなり

○今毛惱牟里人等乎立所爾癒給比昔時に替らぬ只今も神威を以て苦みを惱む里人を即坐ふ直して下され

○大那牟遲大神少名毘古那大神止御兄弟止成坐氏御心乎睦比御力乎合世坐氏須佐之男大神の五世の神

孫大國主命は又の名を大那牟遅神と申して神産巣日神の御子少彦名神と御心を協せ御力を戮せて國土を經營し醫藥禁厭の法を創造りすなはち天下醫道の祖神なり○藥湯乃道登病乎療須流方止乎始賜比諸病を治療する方術を發明し給へる也○神代乃初乃時大神等乃諸〳〵乃病乎治留藥方登禁厭方登乎定給比氐大汝少彦名兩神の神代ふ醫藥禁厭の方を定め給ひて○今世爾至留迄青人草乎助給比救給布今日より至りても万民を御救助下さる○蒼生乎哀給布廣伎厚伎恩賴乎乞祈奉牟止人民を御恩賴を仰がむと欲して○諸共爾議碁智氐古處法乃任爾大神等乎招奉齋奉氐衆議の上往古の例に隨ひ兩柱の大神を御迎へ申して○天下爾所有留顯見青人草乃苦瀨墮氐阿都迎比惱牟乎助賜比救賜閉婆天下衆民の病苦に沈むを

助けにおれば○某等我醫乃業毛大神等能米具美賜比知波比將賜御靈爾依氐志過都事無久驗波將有登姓名等が家業より致す醫術も兩柱の大神の御冥助を蒙りてこそ見る損ひなども無く著き功績を顯すであらう○妙那累道乎得氐醫術上ふつきて靈妙ある智慧を得て○山野爾天波草木禽獸海河爾氐波魚爾貝爾所々隈々爾求取都々種々酒眞藥乃志氐山や野にては草木鳥獸より藥を取り海河よりは魚鼈介甲の類より藥を取て其の他諸所方々にて藥とあるべき物を採り取りて病を療さむとする也○蒼生能外乃病內乃病乎毋眞空乃雲乎高山能風能伊吹拂布事乃如久春野燒火乃移去禮留事乃如久人民の內外症と共に空の雲を山風が吹拂ひ春の野火が燒去りたる如く痕跡も無く全く治せしめ給へと也○靈藥乃奇驗令有賜比良藥の功能著明あらしめ給ふ

作例

○祈癒病

（祭文例）

挂毛畏伎。吾大神乃大前爾恐美恐美毛白久。此里波之毛。吾大神乃鎮坐氐。神隨靈幸閉坐須里之有禮婆浦安伎樂伎里登氐子乃諸人等。喪无久事无久有經之乎。頃日村内爾病起氐。人多爾失奴此乎思布爾吾大神乃氐子等乎守給幸給布。高伎貴伎。恩賴乃被里氐之。此病波可止登恐自物思議氐今日乃生日乃足日爾。禮代乃幣乎捧持氐。廣久厚久。稱辭竟奉狀乎。大神乃御心爾。平久安久聞召登白。如此仕奉爾依氐從今後波。村中爾。此病保毘許留事無久。惱牟物乎婆。速久癒給比直給比氐。堅石爾常石爾。命長久。夜守日守爾守幸給閉登。恐美恐美毛白。

○祈病

（神事略）

某山乃下津磐根爾。宮柱大高敷氐天八十蔭刀鎮座須。某大神乃珍大前爾。畏未々毋申須。某官位姓名伊。間者。某病爾悴氐。月日佐麻年久不平努。故禮畏在抒大神廼大前乎奉齋氐高久尊支大御惠乎蒙里。此病患八可癒物叙刀斟量氐。今日乃良日爾祈乃幣袁令擎持氐。奉請禱留。畏伎大神此狀袁平久安久所聞食氐。此乃疾病袁。速氣久癒給比。救給比。命長

久。今毛往前毛平久守矜未座坐刀。謹々未毛告。

○疫神祭

（私祭要集）

此能所爾神籬立氐。招請奉里令坐奉留。宇治方夜伎。疫病神能御前爾白久。頃日多爾疫病乎起志。伊須呂許比。阿禮比坐氐。公民乎遠延臥志給賀故爾。御心一速比給自登爲氐進留幣帛波。由紀能御食御酒波甕能閉高知。甕能腹滿雙氐山野能物波。甘菜辛菜。青海原能物波。鰭能廣物鰭能狹物奥津毛波邊津毛波爾至麻氐爾横山能如久置足波志氐。奉留幣帛乎。安幣帛能足幣帛登。平久所聞食氐。荒備健備崇給布事无久神直日大直日爾見直志聞直志坐氐自此地波四方乎見。

霽。山川能清地爾遷出坐氐。吾地登宇斯波伎坐世登稱言竟奉久登白。

○拜藥神祝詞

（鈴屋集）

大穴牟遲命少名毘古那命。二柱大神乃大前爾。姓名恐美恐美毋白久。遠津神代爾二柱相並婆志氐。御心以合世賜比御力乎合世賜氐。諸共爾大八洲國修理堅米賜氐國作坐大神登稱辭竟奉大神等。諸乃病乎治牟流藥乃方乎毋始賜比定賜氐。天下爾所有流。顯見宵人草乃若瀨爾落氐。阿都迦比惱牟乎助賜比救賜閉婆。此某等我醫藥乃業毋。大神等乃米具美賜比。知波比將賜御靈爾依氐志。過都事無久。驗波將有登

廣伎厚伎恩賴乎。恐美恐美母歡奉理宇禮志美奉流登姓名恐美恐美母白。

○祈旅程祭　附無異歸着報賽

陸路より遠國へ旅行せむとするゐ臨み其の旅程の無異安穩ならむ事を神に祈る祭なり

○阿須波神。波比伎神。八衢比古神。八衢比咩神　此の四神もとも既に出でたりこゝ又旅中の御守護を願ふ方ゐふ就きて祭るあり

○何某伊今上道爲氏誰某か只今何の地へむけて出發いたす

○食國乃遠乃御朝廷爾退去牟刀須今まで勤仕居たる京都の官衙を出發して遠國の出張所へ參らうと致す也○遠の朝廷は其の國の政事を行ふむが爲は朝廷より置き給へる府縣の類也

○神隨愛乃盛耳天下申志々家乃朝廷の殊寵を榮り万機の政を執り申せる家柄の子息なる子刀撰給比氏勅旨戴持天以て使節を拜命ゐて

○取裝比門出乎爲留　それ〳〵支度を整へ紐ひて出發いたそ

○大君乃醜乃御楯乃出立都　天皇の御楯とありて寇敵を防がむ爲ゐ出立そる也○醜とは強き事よも云へども自ら卑下したる詞なりとぞ○ゝは其の御楯となる人が足拵能眞坂多廻不顧踰行久荒志男　足拵ゐ箱根山のあたりを云ふ其山の坂を撓みまがりて己が家の事も身の事も更よ○美かへりみも踰えて彼方へ進み行くまゝすらをあり

越路乃多武氣爾立氏　越の國（今の越前。越中。越後。加賀。能登）へ入る山の峠の所よ立つゐり

○筑紫乃島乎差氏行久　筑紫（今の九州なり）の方へ向けて出發する

○障敢奴御命爾在禮婆　天皇の勅諚の畏くして拒み障ふるよ堪ざれば意

○大君乃命畏美父母乎齋甕止置伎氏　神を祭る齋甕と大切ゐ

床よ居置くものあるが其の如く父母を故郷ふ置きて天皇の勅を奉じ旅よ出立つあり○丈夫乃去久刀云布道叙大丈夫の行くを云へる道ぞよ○凡可爾念氏行久勿

等閑ふ思ひて行てはおらぬ○千磐破留神乃三坂爾幣奉利荒ぶる神の住みて往來の人よ障害をなし坂ふてい幣帛を獻じ○荒熊乃捿牟刀云布奈累蝦夷乃島爾行久人を害するやうな荒々しき熊の捿居ると聞く蝦夷へ行く○鹿兒自物只獨行久鹿兒が獨であるに只一人ぎりにて行く○靑雲乃靉靆山乎蹈氏行久高靑雲に接する程お高山を越して行く○村山越衣天群山を經て過して○時无久雪波零利間無久雨波降留刀云布高嶺乎踰天雪がふり間無しふ雨も降ると云ふ高山をこえて○足檜木乃山能四付爾所沾都々山から滴る水ふ濡れつゝて○朝越衣氏山下露仁濡禮朝越よ山を陰

露に濡れて○雪消世流山道須良乎泥行久雪の降りて山陰の消え消えて山道を行く也○なづみ濡る意あり○神左振磐根凝志伎山道を行く也○突兀として甚嶮岨ある山道○山行暮志宿借留日暮れて宿を借るあり○旗須爲寸四能乎押靡草枕旅夜取須篠を押靡かせて其の中に野宿をする○眞草苅葺伎宿之氏草を苅り假屋を葺きて宿る也○初尾花假廬爾葺伎氏宿爲留穂に出ぬをすゝきと云ひ穂よ出ーを尾花と云ふ鳥獸の尾に似るが故なり初めて穂に出たるすゝきを借廬よふきて旅寐する也○岡乃草根乎結毘神を結びて旅寐する也○山越能風乃獨行久旅乃衣爾朝夕爾還良比奴禮婆山を吹越す風のかへる衣の袖ふ吹きて寒きを云ふ也○常知旅乃奴道乃長手乎久禮久禮乃刀見知らぬ長道中を不安心にて○くれ〳〵に闇々にて

覺束なき意也

○如何爾加將行加理氏毛無志仁どうして行たがよからぞ

路費も無いふ○かりて宿をかりたる賃宿主より取らするものを云ふ由

○朝川渡利夕河亘利朝に川を渡り夕に又渡る也

○川隈乃八十隈ヲ落萬段顧爲乍川の入込みたる所々より幾遍顧るなり

○彌遠爾里波放里益高仁山毛越延彌遠く里を離れ益高き山をこして

○馬太伎行久馬の手綱をたぐり行也

○馬從行久馬より乘り行く

○乘行久駒乃躓久事無く騎てゆく馬が爪衝き仆るゝ事无く

○石瀨蹈美名積行久川の岩瀨を蹈みて泥みつゝ行く

○巖根蹈美夜道行久岩を蹈みて夜中より通行する也

○直道加良行久たゞちに大道の外の路也

○道乃隈道の入込みたる所也

○打橋渡利打橋は板あゞを以て渡したる橋也

○玉桙乃道行晩志玉桙のは道よかゝる冠辭道

旅人の旅寐するでおらう野邊

○彼方野あちらの野邊

○山河阻利山川を隔て

○打日刺須都閉上留打日さすそゝれ冠辭上京するあり

○旅行毋爲不知若子いまだ旅行いたる事の無き邊也

○旅人乃宿將爲野旅人の旅寐するたる有り

○客人乃宿將爲野旅人の旅寐するでおらう野邊

○彼方野あちらの野邊

○山河阻利山川を隔て

○打日刺須都閉上留打日さすそゝれ冠辭上京するあり

○旅行毋爲不知若子いまだ旅行いたる事の無き邊也

○道乃神達麻比波爲牟道を守り給ふ神たちに御禮と致さう

○山越衣野行伎天雛留鄙治仁登山や野を越過ぎて遠き國の縣官などよ赴任をする也天離き年若き子

○調備爾之家乎毛放利和睦ちて暮し居たる家を離れて

○子袁ハ鄙の冠辭

○波之家也思妻袁良置伎岐行久旅妻子を置きて旅に出立する

○群鳥能群立行久鳥の群飛する如くよ群

家乎離禮愛すべき家をはなれ

○杖衝伎母不衝毛行伎天杖をついても行きくり行也

○問物言ひやるべき親戚同胞なども無き他の遠國

親族兄弟無伎國爾渡行久放留

よ渡り○旅登云閉婆言耳叙安伎口で言へば旅へ事も無くし安きやうあれ行く

○爲方毛无久苦幾旅しやうも無く苦しい旅○家人乃齋侍都家ふる妻子へ道中安穩にて早く歸宅あるやうあと齋ひて居る

○母父毛妻毛子等母高々爾侍多牟父母妻子は家ゐ居てはるば○衣借須可伎る待居るあらむ

妹母無枝旅衣服を借りてくれるやう○肩乃紕波誰加お知己の婦人も無き旅中

毛取見牟旅衣の肩の所が綻びても誰あつて認め縫ふてもくれまいと云ふ由○旅爾久志久奈利奴長々の道中ふあつた

○天雲乃行伎天歸艮牟其乃日迄天雲が往來する如く某の地へ行きて又こゝよ歸りて來ら

○往左來左乃路乃間往返の道中

○玉戈乃道行疲留々事无久道を行きて疲勞する事むの日迄

も無

○畏伎大御守耳因氐志道乃長路乎恙無久あり神がたき神

作例

○祈旅程

挂毛畏伎吾皇神乃大前爾恐美恐美毛白久何某伊今上道氐爲某國某里爾行牟登爲乎吾大神乃高伎貴伎恩賴爾依氐往左來左能路乃間都々牟事无久守給比幸給比氐平氣久安氣久歸之給閉登禮代乃幣乎捧持氐恐々毛稱辭竟奉久登白

○祈程

言欲母由々敷挂欲母貴伎阿須波神波比伎神八衢比古神

（祭文例）

の御守よりて長々の道中を安全よ

（神事略）

八衢比咩神乃大前爾某姓名頸根突拔天恐々美母言佐久頃日○某國某郷爾將行刀之氐來武某日乃某時乎吉日乃良辰刀祝定米氐上途末久爲袁皇神迺長伎大御守仁因天之道乃長路袁恙無久安良加爾堅良可仁往還良牟物叙刀忌比清米氐御酒御饌置足方之祈乞奉良久乎隨神母平久聞食反刀畏々三母言

○同報賽

挂卷母貴支某神乃大前爾畏々美母某甲白給方久往日某國爾將行刀爲之時爾往佐來佐恙事無久守幸反給皇神乃御前爾乞祈申之々母效久事無久平爾家爾還着奴留事乎斯喜美乎三御食御酒種々乃御贄袁報申乃禮代刀奉置氐稱言奉竟久刀申

（同上）

○武神祭

軍事を守り幸へ給ふ神を祭るあり○陸軍海軍の遠征より際し勝利を祈る折あるには上の出船祭祈旅程祭の條下を參看し適當の句を採用うべし

○建御雷之男神　伊都之尾羽張神の御子にて武道を守り給ふ神也

○經津主神　石拆根拆神の御子にて亦武道の神なり

○武士乃道　武士たる道あり

○兵事　軍陣の件なり

○劔太刀腰爾取佩　伎刀劔を腰に着け

○節刀給波利　征討より出發の時朝廷より賜へる大刀を賜へるなり

○劔乃多賀美取志婆利　たがみい

劍の柄をとりしぼれば○燒大刀乃手頻押禰利刀柄を握りひねる
堅く握るあり
○劍大刀彌磨久可志劍を磨ぐ如くよいよ〳〵武士の魂をもみがくべしと也○
燒刀乃稜打放都丈夫稜打放つは俗にいのぎをけづると云ふが如し○巖須良
行通留倍伎建男岩石が障へてもそれをつき通して行くほどの勇士なり○劍佩伴
男勒貢布伴男武官の人々を指す○生大刀生弓矢生は祝へて云ふ詞○
靫取負比檀弓乎手握利持知眞麻矢乎手挿添倍矢を盛る器を
脊に附け檀の木よりて作りたる弓を手に握り鹿兒を射る箭をもちそなへて○梓弓末振起志投
矢持知千尋射亘思梓弓と梓の木にて作れる弓也投矢は射遣る矢と云ふ事ありとぞ○
常爾鋒心振起志居恒鋭き心をおこし○丈夫耶無奈之久可在伎
大丈夫豈空しく朽果つべき事かむ○隱波奴赤心乎皇邊耳極盡志青天白日も恐も班匿すべき所無き
誠忠の心を朝廷に盡し究めき○大朝廷乃外重仁立候比內
重仁仕奉利朝廷を御守護申して御門の外重に立ちては內重ふ在りては御用を承る
は見張りをし
○海行加婆水漬久屍山行加婆草生須骸王乃邊爾古曾死
米長閑耳波死那自天皇の御供申して海上を行く時ふ
當りて事起らば命を棄てゝ防戰し
死屍を水よ浸すも更よ厭はず山行く時に事起らば是亦
同樣骸骨ふ草が生るも若ふはせぬ只どこまでも天皇の
御味方となりて死なう疊
の上で安樂よは死ぬまい○額爾波箭波立登毛背波箭波不
立前額よ矢ゝ負ふとも決して後背ふ矢
は負けぬ○敵にうしろを見せぬ意也○貞仁明伎心
乎以氐君乎助奉利貞潔清明なる心を以て○對比氐波
天皇を補佐し參らせ
無禮面幣理无久君の御前に於てい失敬○後爾波誘言
なる顏色有ることなく
無久退きて誹謗あど致さず○妍僞里諂曲禮留心无久奉侍志米給

比奸佞虚偽よりて阿諂邪曲なる心と毫も無くして君に仕へしめ給へ

○仕來留親乃職

祖先相傳の職務

○空説毛祖乃名勿斷

家の瑕瑾にあるやうの事たりとも言ひたやさるゝな

○措伎清伎名あつたら清き名譽

○見留人乃語繼伎氏聞久人能鑑爾將爲

近く見る人は美譚として語り繼ぎ遠く聞き及ぶ人も己れが手本にする

○後世仁語續久倍幾名乎令立給閉

万世の後までも傳稱せらるべき美名を立させ給へ

○武士乃臣乃壯士

武官の大身の人

○天地乃初時從現、見能八十伴男波大王仁服布者斗定万禮流官開闢

の時より皇陛下より期待すべき者と定れる官である

○朝乃守夕乃護爾大王乃御門乃守護

朝夕に宮門を警衛する

○千萬能軍奈理登毛言舉爲受取氐可來男

千万騎の軍勢で彼是言はずに只一人で討取て來る程の勇

○不順人乎婆坂能星毎爾追伏世川能瀬毎仁追撥比氐悉耳令言向給比

朝廷より從順さる者どもをば討伐して坂の峽川の瀬に到る處ゝ追伏せ追拂ひ悉く降伏せしめ給ひ

○千早振留人乎和志不奉仕國乎掃布登荒ぶる反賊を誅戮して服せざる敵國を滅ぼし給ふ也

○齊流皷乃音波雷能聲斗聞久迄

陣大鼓の聲は雷鳴かと思ふ程よ

○吹響流笛乃音波敵見多累虎加叫吼留刀

吹鳴したる笛喇叭も笛

○御軍士乎喚賜布

朝廷より軍勢を徵聚し

○指舉多留幡乃靡波

のさして(よし)のひゝきは恰も虎が敵を見て咆哮るかと思ふやうゞ

冬木盛春野燒火乃共靡氣留如久

捧げ持ちたる旌旗の飜へるさまは春の野に着きたる火が風に隨ておびくが如く

○取持在弓弭乃騏眞雪落留冬乃林爾飄加毛伊卷渡流刀念布迄

人毎に取りもちたる弓弭が騷ぎ鳴るさまハ恰冬の

林よつじかぜが吹渡り○去鳥乃相競布端耳鳥の先を爭ひ樹梢を動搖させるやうに飛行く如くよ相戰鬪ふ際よ○皇大御國乎婆伺來良牟醜虜乎婆神風爾氣吹惑波志社軍乎皇軍爾副氏大船小船悉爾打擢伎仇乃兵卒乎皆屠殺左志米給比我が皇國を覬覦しつゝ寄せ來らむ外國の軍勢い神風よ吹惑はし給ひ神の御軍勢を朝廷の軍勢ふ添へて大小の敵艦を殘らず打擢き敵軍をもみあでろしにせしめたまへ○底倚乃夷狄乃國與利寇美來都々立回比窺比船漕寄流事乃有良婆底倚は所謂足版相對する國々を云ふ然る夷狄の國（文明國）へ此の限りふ非やより夷賊が寄せ來て我が國を奪はむとしたらば○他國乃異類乃加侮致亂留倍伎事乎何曾聞食天警賜比拒却介賜波須在牟外國の別種族の人どもが皇國を輕蔑し侵寇せむとする由を神々の聞食なから如何でかこれを警め給ひ禦ぎ却け給ざる事のあらむやと云へる意也○神明乃助介護利給波婆何乃兵冠加近留可伎神々の御守護だに厚からば如何なる寇も近より難からむ○天地乃共外國與理犯參來牟事無良志米万劫末代までも外賊の侵寇そる事無き樣に○若惡伎人乃國家乎亡牟乃謀留事奈良婆もし又逆賊ありて朝廷を顚覆むとはかるならば○逆心乎抱藏氏朝廷傾介牟登謀流頑狂波内心よ齋邪の策を隱匿し持ちゆく朝廷を滅亡させんとする奸賊は○悉爾令打給賜比遣らせ謀戮せしめ給ひ○皇御孫命波天壓神止大座坐須大御稜威乎天下四方爾令示給比吾が天皇陛下は實に神武啟聖ふたはしますと云ふことを天下四方の万國よ知らしめ給ひ○今毛去前毛武士乃道彌守爾護彌助爾扶給比氏只今も此の後も武士の道をいよ〳〵守り助け下されて〳〵ます○使布家令爾至流迄

異伎心乎思波受郎黛ちまでも二心○己我乗々令在受
心爾汚伎隈乎置加受銘々別れ〳〵の心にならぬや○
うに又腹黒き事の无きやうみ○
狂行不令在道よかけたる事を○奉留幣帛波射放物登
なさしめ給はゞ
弓矢さ一あげる物は神の射放ち○打断物刀太刀
給ふ れ道具とし て弓と矢
りよあ る物 て駈け出づ
として大刀 留 る物として御馬
○馳出留物登御馬 ○大神
等能御心毛明爾神の御心をあきらかに

作例

○武神祭

此能神床爾神籬立氐。招請奉里令坐奉留。建御雷之男神。經津主神能御前爾稱言竟奉久登白。高天原爾神留坐須。皇親

（私要集）

神魯岐。神魯美能命以氐。皇御孫命波豊葦原能水穂國乎。安
國登平久所知食登。天下依奉志時八百万能神等乎。天安河
能河原爾。神集集賜比。神議議賜氐。彼國波知速振荒振神多
在登所聞食乎誰能神乎遣氐加。言向麻志登。問波志給布時
爾八意思兼神。深久思比遠久議給昆都良久天安河能河上
天石屋爾坐須。伊都之尾羽張神能御子。建御雷之男神石
拆根拆神能御子。經津主神是善計牟登白賜伎是以二柱大
神等。神漏岐神漏美大命乎以氐。出雲國伊那佐能小濱爾。天
降舊給氐國造良志々。大國主神其御子言代主神乎神問志
問志賜氐。現國能事避志米。久那斗神乎鄉導登爲氐大八洲

國中悉廻給氏。螢那須羅神狹蠅那須邪伎神等乎婆神掃掃
給氏語問志。石根木立。草能片葉乎毛言止氏。安國登平久鎭
給伎又畝火能橿原宮爾。初國治看志。天皇命能大和國爾打
入賜志時爾。邪神能氣吹爾。梓臥志坐留乎。國平能横刀。布都
魂乎。天降志寄志給氏荒振神乎。皆切仆志賜伎。又師木水垣
宮爾大八洲國所知看志。天皇命能大御代爾毛。大坂山能頂
爾白妙能大御服乎着坐白鉾乎御枝爾取坐。識賜命波。我御
前乎治奉波。汝聞勝知食國平久。大國小國事依給牟登識賜
伎故此大稜威乃高久貴伎御靈布由乎辱美氏。奉留幣帛波
射放物登弓矢打斷物登太刀。馳出物登御馬由紀能御食御
酒波甕戸高知。甕腹滿雙氏。大野原爾生物波。甘菜辛菜。青海
原爾住物波鰭廣物鰭狹物。奥津海菜邊津海菜爾至麻氏爾
横山能如久。几物爾置所足氏。奉流幣帛乎大神等能御心毛
明爾。安幣帛能足幣帛登平久所聞看氏今毛去前毛武士道
彌守爾。護。彌助爾扶給氏。靫負伴男。劔佩伴男等常爾鋒心振
起氏額爾波箭波立登毛背波箭波不立登。言立爲都々劔能
多賀美。取志婆里氏。不順人等乎婆。坂尾毛爾追伏。川瀨毛爾
追撥氏悉令言向給閉登。十六自物膝折伏字事物頸根突
拔氏。稱言竟奉久登白。

○祈武運長久

（祭文例）

挂毛畏伎吾大神乃大前爾畏美畏美毋白久。何某我。物部乃道乎。神隨守給比幸給比氐。天皇我朝廷乃敷給比行給幣流御法乎之。過犯事无久正伎直伎誠乃心以氐緩怠事无久仕奉氐大王乃。醜乃御楯。食國乃大伎守登。丈夫乃清伎其名乎外國麻傳毛所聞令滿給比。賴氐所使流。臣等乎毛。已我乖々不令有。邪穢心无久彌務米令務給比領氐治流公民爾至流麻傳。夜守日守爾守幸給閉登。禮代乃幣乎捧持氐恐美恐美毛稱辭竟奉久登白。

○文神祭

學問の上ふ幸へ給ふ神たるを祭るあり但しこゝには編者等が最尊信とする古道學の祖神を祭る時ゝ用ゐる語句を專と擧げたれば其の心して採拾ふべし

○八意思兼神　高御産巣日神の御子にして數人の思ひ慮る智を一の心に兼持ち給へる神なれば學問の祖神と齋奉るあり

○忌部神　齋部廣成宿禰あり古語拾遺を奏進せられ道の爲忠ある人なりしを以て我が古道學の神と仰ぐあり

○菅原神　贈太政大臣菅原道眞公即天滿宮にして文道を守り給ふ神ふるこゝは三尺の童も知れるなるべし！

○羽倉大人　荷田宿禰羽倉東麿先生にして古道學を興されたり

○岡部大人　加茂縣主具淵先生に平朝臣本居宣長先生ふて本居先生の師なり

○平田大人　平朝臣平田篤胤先生也○此の先生たちの履歷概畧ありとて平田先生の師なり

○久延彦命　山田の曾保騰俗ふ案山子と云ふ物ある生たちの履歷概畧ありとこゝに擧げまほしけれど紙葉の殘り寡くなりつれば遺憾ながら止みぬ請ふ玉襷を見よ

○久延彦命　山田の曾保騰俗ふ案山子と云ふ物ある古事記ふ此の神は足は行かねど天下

の事を悉く知る神なりとあるよ依りて平田先生の學神の中に入れられたるあり又同先生は此の神を天勝國勝寄靈千千憑彦命と稱へ申されたり其い此のそはどに天神地祇千五百万の神靈の憑寄て奇しき思賴を幸へしめ給ふが故也

○文道乃御祖學問の始祖の○某等袁遲奈久拙伎身爾波雖有私どもまことよ役よも立ぬ屑劣な身でもあれど

○御教乃隨爾伊蘇之美學備氏故大人たちの書物ふ記きて敬へ殘されたる通りふ勸め具似びて

○朝夕爾心掛氣天勤米學毘朝夕怠ら○葎艸滋禮留布勢廬乃柴乃破戸乎推開伎氏尊伎御道乃片端乎毛手取行比貧賤の身あがらも皇道を崇信ちて其りの片端を親ひ得て

○大人達能御志乎續伎氏故大人たちの書を講究ちて上代の事を實を考明し

○上都代乃道乎廣久深久釋明志古太神聖の道の尊き所以を十分ふ說明ち

○身爾敢奴業耳波雖有神乃御典乎熟解明志氏神學は高妙の學問ふて拙劣なる吾々の身には容易ふ學得られず不相應の仕事ではあるら一給へる

○神代乃御史乎見氏古事乎考紀志上古の史御志を繼ぎ

○靈能御柱立神學は高妙の學問ふて拙劣なる吾々の身にあれど併ち勉強ちて篤と講究の上解釋致ち

○神等乃御德乃辱伎本乃由緒乎世人爾普久知志米神德の有難き所以を廣く知らしめ

○西洋乃學問波雖世人爾敬神尊王の心も無く國體を重んじ古道を擴張する志も無き人い恰ど柱無き家の如く何固米志米

○漢乃爾有禮の用よも立ざれば然る罪よ道の學を令爲て確乎たる心の柱を衝固めまめ

○日本精神波不忘海外各國の學問ふ從事る人とい爲日本精神波へども苟も日本人たる以上と決し て日本精神を忘却する事无く○日本精神とい皇道を崇び國体を重んぜる精神ふり

○有禮天竺乃仁有禮其乃先々乃國乃爾有禮史乃云布史波有限利探見極米氏古道學を修むる者といへども故大人たちの著書を讀むのみよて他の諸書を見

ざる時は廣く天下の形勢に通ずる事能はざるを以て支那の書でも天竺の書でも又それより先々の歐米各國の書でも何でも敵でも殘らず見究めて

○古語等波漏須事無久過都事无久正語乎正語刀思得志米給比

上代の史書などを編纂するに當り古事を採撰し古語を蒐集する折などには神助によりて粗漏杜撰の過無きやうに御守りあれ

○説誤禮留事有良婆次々爾思得氐令改給比

もし又思ひ違へ説過ちたる論説などがあらば速に自ら其の非あるを知りて改めさせ給へ

○五百卷千卷乃書等言美志久義理正志久記得志米給比

數千卷の書籍を立派に著作せしめ給ひ

○足波不行杼母天下乃事等盡爾令知給比

たとひ一室の内にのみ居るとも悉く天下の事を知顯さしめ給ひ

○幽事神事毛知留々限波令知給比

幽顯界分れてより顯世よりは決して幽世の容子を知る事出來ざれども併し神助に依りて知らるゝだけは知ることを得しめ給ひ

○書讀物書業乎爲志世乎渡良比家乎治留

學文事を以て渡世とし家を立つる者

○學問乃業爾悟深久

學事上に才知卓絶し

○彌獎耳獎兒給比

いよいよますます學事に心進みて勉強せしめ給ひ

○許多久患爾令功給比

極めて深切に學事に勤勉せしめ給ひ

○今與里後彌益々爾此學乃榮行久御世刀成志米給比

今日よりして後もますます此の皇道學の旺盛になる樣に御守あれ

○功成覺留麻傳世乃長人止令在給閉

學術熟達して目的を達するまでは壽命長久あらしめ給へ

作例

○拜古學神等詞（毎朝神拜詞記）

吾古學爾幸閉給幣登齋比奉留。八意思兼神○忌部神○菅原神

又添氏齋比奉留。羽倉大人。岡部大人。本居大人久延毘古命乃御前乎慎美敬比。學問乃業爾悟深久。彌奬爾奬給比。足波不行杼毋。天下乃事等令知給幣斗。畏美畏美毋拜美奉留。

○三大人靈祭詞

（秋屋文草）

此乃小床乎祓比清米。持齋麻波里持嚴志里氐招奉里齋奉留水鳥乃羽倉大人水莖乃岡部大人。吾祖秋津彦美豆櫻根大人乃御靈乃前爾。畏美畏美毋白左久。挂卷波恐可禮杼毋我皇大御國乃。大道國體波志毋。惟神。太久嚴志久在留物可瓦中世乃禍事乃狄霧立。遠山本乃。於保々志久隱呂比來爾志乎神直日大直日神乃命乃恩賴止。樛木乃彌繼々爾。汝命等。世爾出座。辨閉教閉給比志隨々邨雲裳漏出留月乃眞明亮爾成都々。大凡乃人等毋。神乃道。人乃道々。惑布事無久。奈毋成爾多留。故神乃道。本都國體波志毋。彌開介爾開介氐。靑山乎。登留朝日乃高々爾。八丘八谷殘留隈無久照涉里。終爾今乃此大神世爾米傳多久美志伎御代止成奴留毛。靈幸布天都神達乃御心奈留波。更爾毛云受。專汝大人等乃教辭乃功績那良受也波在留。故今入紐乃同心爾慕奉里尊奉留人々。相共爾御祭仕奉留事波。今與里後此大道彌明里爾明里彌張里爾張里行牟賀禰。又諸乃神社爾仕奉里學業爾。教道爾。勞伎勤志牟人々袁婆。彌助介彌導伎。各々實乃効乎。世爾

顯志。大伎績袁外國麻傳毛伊行徹佐志米給閉刀。乞祈奉留賀故爾御饗止波御酒御饌海川山野爾住牟物。生留物。御幣止波。照妙明妙。又各々詠出。歌出多留。言乃葉乃花袁志。小瓶乃花爾差添氏。擎介奉良久。年毎爾仕奉禮留例乃隨。今與里後毛。千秋乃。長秋爾如此仕奉良牟刀爲留狀乎平介久聞食相宇受那比給閉刀。奥山乃賢樹賀枝乃打靡伎。大野乃小笹諸向爾愼美敬比乞祈白佐久止申須

○祖靈祭

家々の先祖代々を始め考妣の靈を祭る神事畧ぼ氏神祭は毎年二月、四月、十一月

爲二常祀一と寛平七年の詔文に見えたれば祖祭も三たびおこらむ事論なき云々日時い心にまかすべしといへども先祖父母の忌日は堅く用ゐべからずとあり

○遠津御祖乃御靈御先祖の精靈也

○代々能祖等乃御靈二代目三代目其の以下代々の靈神と云ふ

○親族乃御靈同家諸親類の靈等あり

○此乃家爾睦親米流諸乃御靈等當家より緣故有りて睦ちく親しかりし人々の靈

○總氏此祭屋耳鎭祭留御靈等總じて此の靈屋の內なる靈等を祭り申したる靈等

○百年千年乃遠久久志伎上津世乃遠祖數千年前の遙なる遠祖なり

○本都大祖極々最初の祖おり源氏皇平家おらば桓武天皇と云ふが如し

○四等乃祖等乃御靈高祖父母より父母に至る四等の祖を云ふ

○曾祖父大々父の意俗にひいおじいと云ふ

○曾祖母大大母の意俗よひいおばと云ふ

○祖父大父あり俗にたち

いと云ふ○祖母（大母なり俗よおばあと云ふ）○伯父伯母（小父小母の意）○舅母の兄弟を○兄（いろは親しむ詞あり）○弟（おとゝは劣れる人ふて兄には劣れる也）○孫（ひこと云ふが正しき由）○曾孫○離孫（蜘の子を離孫と云ふ）○知々乃賈父乃命波々曾葉乃母乃命（ちゝのみもはゝそばも共ふ○於母（はゝの事也）○考君乃眞名子母刀自乃愛子刀在流（ちゝのみもはゝそばも共に冠辭なり命い崇みて云ふ）○我身能加是在留事毛皆代々乃祖乃深伎御蔭（今日某等が居るも皆先祖代々の御恩澤あり）○此乃家乎興志給閉留御功勲波長久遠久朽事无久（御先祖が此の家を興おこし給へる御功勲は長く遠く朽ちず）○某（父母の鍾愛を蒙れる某の意也）○某等旦暮爾恩賴乎加賀布留事乎嬉下されたる功ハいつまでも記憶せられ）○某美悅毘（私どもわけくれ先祖の御恩澤ふ浴くすることを嬉く悅ひ思ひ）○本爾報由留大義乎忘留至刀（報本返始の道を忘れまいとて）○赤伎清伎心許乃禮代刀（聊なる禮代の物なれど只赤心を表する迄よ奉る）○銀金花咲開久二月乃吉日時乎撰定米氏（金銀の花の咲く二月の吉日佳辰を撰びて）○親戚家族諸人參集比御祭仕布留（親類が寄集りて靈祭をするあり）○奥山乃賢木乃枝乎打折持來氏伊豆乃眞坂樹登二所爾刺分（山奥から榊を折て來て）○清浄なる眞榊と靈位の兩側よさし立て乎母取添无（時節を待て兼ねて爭ひ咲き）○神離成須波夜志齋比立奉利氏（榊も如くよそへ）○御饌波白良乃眞白良乃濱乃眞砂刀積高盛（白良の濱へ伊勢の名所精米の御饌い白良の濱の眞砂、ほど多く盛りあ）○御酒波汝路乃彌潮路乃沖都海潮止滿湛閉（御酒大げ

洋の湖の如く○鰭乃廣物鰭乃狹物波朝市附海人賀運閉たゝへーめ留鮮介伎乎撰里魚類は漁夫が朝の市場へ持て來た中で一ばん新ーいのを撰り○甘菜辛菜波夕川附少女賀洗布清伎乎撰里野菜物も女どもが晩方川で洗て居た中でも殊よ○天飛布也雁乃御贄大野行久鵠乃御贄鳥類は空を翔る雁や野を歩く鶉を供る味自物谷乃木實味美きものゝ谷の木の實也○時自久乃香乃菓楠なりも同種類也○干柿食花乃如造禮留菓子蒸菓子乾菓子などの色よきを云ふ○色々爾心盡世留多米乃御贄種々に心を節めて御供物調へたるうまき御○笛吹鳴志琴彈奏氏笛を吹き琴を彈き○春花乃盛乃男耳太刀取佩婆世秋山乃下布留未通女耳袖振弱左世歌比舞波志米壯男ふ劔を負はせ大後舞を舞はせ少女よ袖を振らせ八處○咄嗟手伸志嗚呼面著乃見行志氏女を奏でさそる也○樂ーや面白や○彌孫乃續々爾益々耳令榮給比子孫子孫御覽あり て○嗣孫等我家門荒留事無久宇麻の末までもいよ〳〵ま〳〵繁榮せーめ給ひ○波利榮衣氏子孫の者ども就れも家門衰頽する事無く繁殖ーて○先祖乃門毛不滅繼毛不絶先祖傳來の家名も亡滅せざまた相續人も斷絶せざ○貢持氏留氏乃名不穢醜行をして家名を穢す事おく○祖名不落不肖にーて先祖を辱ーむる事なく○御祖等能寄左志賜閉留家乃財産乎散左受御先祖よ傳られたる身代を潰さざに○壽命長久御祭善久令仕奉給比長命よて御先祖の祭を立派ふ仕へさせ下され○明伎直伎淨伎正伎眞心乎以氏君父爾令仕奉給比潔白正直なる心よて君父よ仕

○御惠能海山乃高

久深久海山と同様よ高く深き御恩

○玉手禮不懸時無久慕備奉留

玉澤は冠辞あり心にかけて

お慕ひ申さぬ時とていれおれ

○子波祖乃心成伊自子爾波

可在子たる者は親の心を心として

事を勤むるこそ子の道なれ

○家業嗣足比家

も繁昌にゆ

たかよおれ

○家門廣久家富み睿族

も多くあり

○妻子僕從等爾

至留迄つまやこや

家合までが

○和備睦毘中よく

暮し

○家爾毛身爾

枉事不令有家よ就きても身よつ

きても惡事災難

毛

作例

○拜先祖靈屋詞

（毎朝神拜詞記）

遠都御祖乃御靈代々能祖等○親族能御靈總氏此祭屋耳鎭

祭留御靈等乃御前乎愼美敬比○家爾母身爾毛枉事有世受

夜乃守日能守爾。守幸閉宇豆那比給比。彌孫乃次々。彌益々爾令榮給比氐。息内長久。御祭善志久仕奉志米給閉。祈白須事能由乎。平祈久安祈久聞食幸幣給閉。耳畏美畏美毛拜美奉琉。

○祖靈祭

（神事略）

嗣孫某膝折伏世氐白須。今日遍年久任例爾。二月乃御祀奉事乃之氐遠御祖四等祖等能。御靈能御前爾。忌甕滿並倍。和稲蠶稲海川山野乃御饗。如横山引居置氐進良久袁平爾丹穂遍聞食氐。親戚諸人參集比御酒乃於呂之甘美爾飲比。酒幣物喫倍。手掌母摎亨爾拍上流乎諸共爾相共爾御心毛宇

良宜所看氏。子孫八十連。明直伎浄正伎眞心乎以君父爾令奉事。負持氏名不穢。祖名不落。家業給足良比。家門高久廣久妻子眷族僕從爾至麻偉。堅磐爾常磐爾壽長久。平久安久。日爾異爾守幸給反刀。嗣孫某拜美畏未氏白。

祝詞初學下卷終

附錄

○鎭魂祭祝詞作例

此の一章は磐城國行方郡小高驛なる多珂神社の文庫お代々傳へ來つるを同社の神主高玉安兄ぬしが古書ふ參考訂正して吾が氣吹星先生の閲覽を請ひ置かれしものありとぞ今回此のうひまおびを編輯せし由聞きて安兄ぬしの眞子篤義よりハるゝ寄せられたるがゆゑ附錄としてこゝに掲ぐ

掛卷毛畏伎布留大神乃大前爾畏美畏美毛白須。過犯事乃有乎婆。神直毘大直毘爾。見直志聞直志坐氏。今乞祈奉留事能由乎。平氣久安氣久聞食世止白須。高天原爾神留坐須神漏岐神漏美能命以氏。十種能天璽能瑞神寶乎以氏。天照

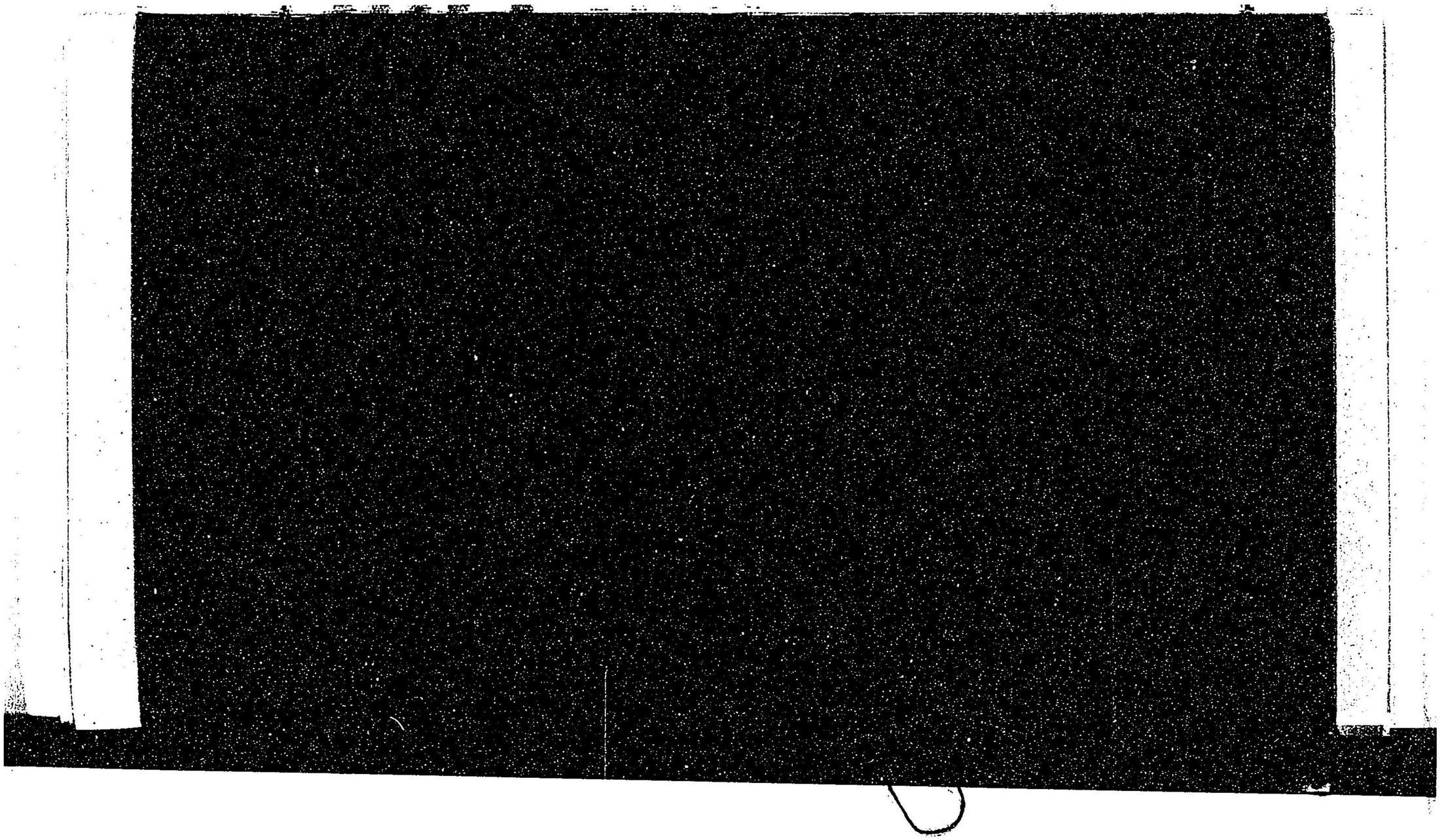
國照彥火明櫛玉饒速日命爾授給比事教給波久汝志此天
璽能瑞神寶乎以氐豐葦原能中津國爾天降氐蒼生能爲爾
鎭收米氐若痛所有良婆御倉栅爾鎭置氐魂鎭乃祭乎取行
比氐此神寶乎布瑠部一二三四五六七八九十止云比氐布
瑠部由良々々止布瑠部如此爲之者死人毛更返生矣止事
誨給比志天神御祖乃大詔乎稟給比氐饒速日命天磐舟爾
乘氐河內國河上哮峯爾天降坐氐大和國鳥見山麓乃白庭
乃高庭爾遷坐氐鎭齋奉里給比石上大神止號乎稱閉奉里
萬物乃爲爾布瑠部止云布神辭乎負持給布故爾布瑠之御
魂神止尊敬奉留所謂十種乃神寶波瀛津鏡邊津鏡八握劔

生玉足玉死反玉道反玉蛇比禮蜂比禮品々物乃比禮此十
種神寶乎一二三四五六七八九十止云比氐如此由良加志
奉良波天神御祖乃御辭乃隨爾諸乃病事波速爾拂比給比
癒志給比彌心乃足氐死人毛更爾生返良志米給比如此久
禍事爲須枉物波今設備布留篠葉乃舟爾乘氐速久底都根
乃國爾退去禰止白須然逐比終那牟爾波再比歸來留事無
久夜乃守里日乃守爾守里給比氐正伎直伎固有乃御靈乎
婆大船乃寬爾辭爾心乃正中爾鎭米志米給比氐浮禮徘徊
布事無久言靈乃幸比有志米給比身乎健爾壽命長久堅石
爾常石爾守里給比幸閉給布物叙止御魂鎭乃神態仕閉奉

留由緣平。掛麻久毛畏伎。布留乃御魂乃大神等天乃斑馬乃。耳振立氐聞食世止畏美畏美毛白。

明治十六年十一月十七日板權免許
明治十八年七月十日下卷出來

定價四十錢

愛知縣平民
編輯人　坂正臣
麻布區麻布我善坊町二十六番地

東京府士族
出板人　平田胤雄
本所區柳島横川町拾壹番地